南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）

―― 中山間地域農村活性化総合整備事業（種子島銀河地区）・
県営畑地帯農道網整備事業（西之地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

摺ヌ遺跡
久カ保ス遺跡
嵐遺跡
今平遺跡

1996年3月

南種子町教育委員会

序　文

この報告書は，中山間地域農村活性化総合整備事業種子島銀河地区と県営畑地帯農道網整備事業西之地区に伴う摺久保遺跡外の発掘調査を国・県の補助事業で実施したものです。

調査は，県立埋蔵文化財センターの指導をいただきながら，南種子町教育委員会が主体となって，平成７年８月21日から平成７年９月20日までの約１か月間実施いたしました。この調査で，摺久保遺跡と今平遺跡について縄文時代前期と早期の土器が出土し，遺跡の所在が確認されました。

発掘調査の実施と報告書の刊行にあたり，鹿児島県教育庁文化課・県立埋蔵文化財センター及び作業協力者の方々やその他の関係者の方々の御協力に深甚の感謝を申し上げますとともに，この調査報告書を通じて町民の文化財保護に対する御理解を深めていただければと祈念する次第です。

平成８年３月

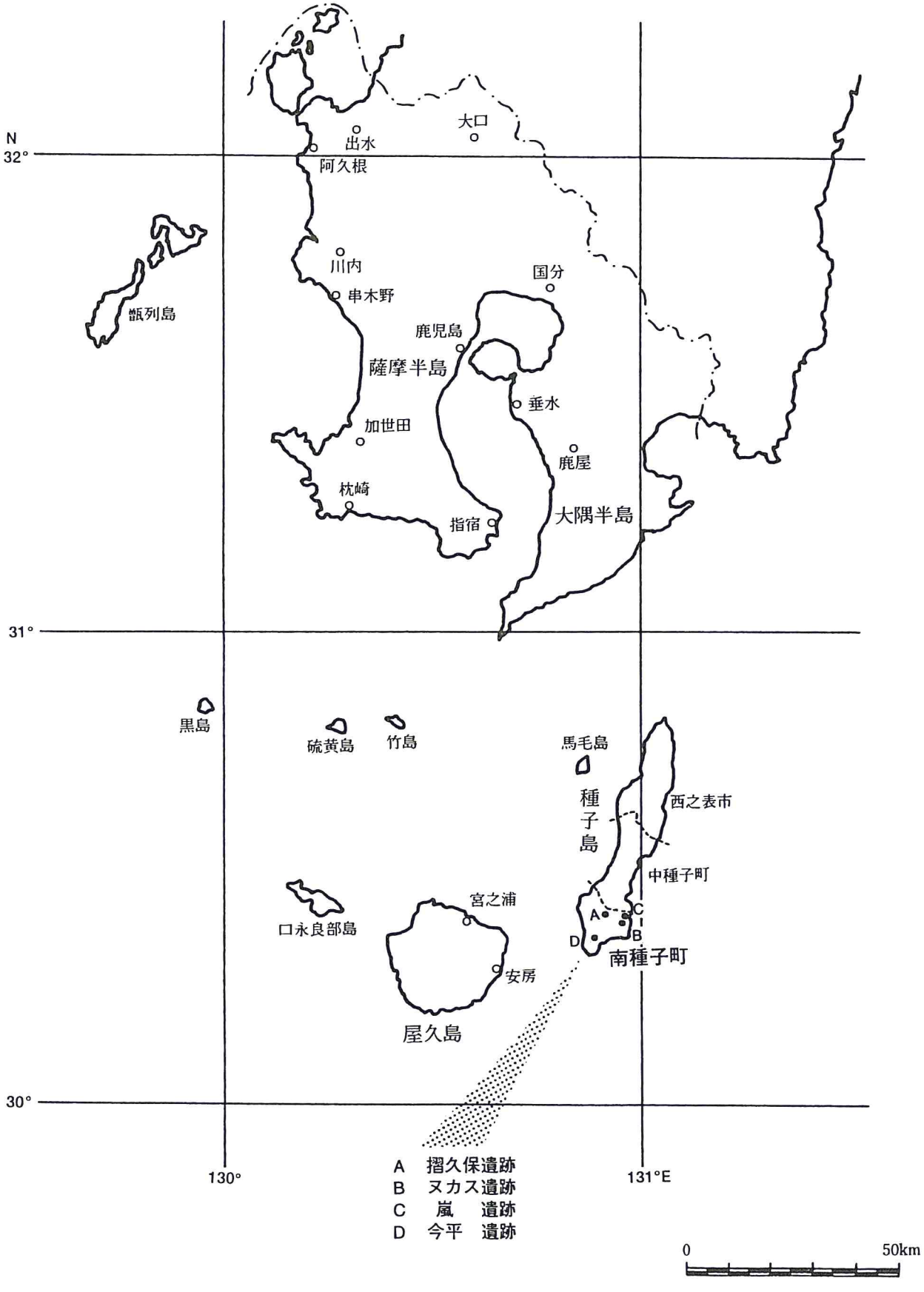
南種子町教育委員会
教育長　堂ノ脇　大雄

報告書抄録

ふりがな	すりくぼ　　ぬかす　　あらし　　いまひら
書　　名	摺久保遺跡・ヌカス遺跡・嵐遺跡・今平遺跡
副書名	中山間地域農村活性化総合整備事業･県営畑地帯農道網整備事業に伴う発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書
ｼﾘｰｽﾞ番号	第７冊
編著者名	坂口　浩一・肱岡　隆夫
編著機関	南種子町教育委員会
所在地	〒891-37　熊毛郡南種子町中之上２７９３番地１　℡.09972-6-1111
発行年月日	西暦　　１９９６年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すりくぼ 摺久保遺跡	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上	５０２０	５２	30° 26′ 20″	130° 55′ 00″	19950821 ～ 19950920	12 ㎡	中山間地域農村活性化総合整備事業・県営畑地帯農道網整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
ぬかす ヌカス遺跡	鹿児島県熊毛郡南種子町平山		５３	30° 26′ 20″	130° 57′ 40″		64 ㎡	
あらし 嵐　遺跡	鹿児島県熊毛郡南種子町平山		５４	30° 26′ 40″	130° 58′ 00″		98 ㎡	
いまひら 今　平遺跡	鹿児島県熊毛郡南種子町西之		５５	30° 22′ 30″	130° 53′ 30″		46 ㎡	

所有遺跡名	種　別	主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項
摺久保遺跡	散布地	縄文時代 (早期)		土　器	
ヌカス遺跡					
嵐　遺跡					
今平　遺跡	散布地	縄文時代 (早期)		土　器 (１箱)	



南種子町　摺久保遺跡外位置図

例　　言

1　本書は，1995年８月から９月にかけて実施した中山間地域農村活性化総合整備事業と県営畑地帯農道網整備事業に伴う発掘調査の報告書である。

2　調査は，国庫補助事業を受け南種子町教育委員会が調査主体となり，県立埋蔵文化財センターに協力を依頼して実施した。

3　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。

4　遺物番号は，本文及び挿図・図版の番号と一致する。

5　発掘調査における測量・実測・写真撮影は坂口・肱岡が行った。遺物の実測・トレースは坂口，写真撮影は坂口・肱岡が行い，県立埋蔵文化財センター児玉氏に協力を得た。

6　本報告書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅰ章，第Ⅱ章，第Ⅲ章，
第Ⅵ章，第Ⅶ章……坂口
第Ⅳ章，第Ⅴ章……肱岡

7　報告書の編集は坂口・肱岡で行った。

本　文　目　次

序　文
報告書抄録
南種子町摺久保遺跡外位置図
例　言
第Ⅰ章　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　調査に至るまでの経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査の組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第３節　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　第１節　自然環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第３節　周辺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第Ⅲ章　摺久保遺跡の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第１節　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第２節　遺跡の層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第３節　各トレンチの調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第４節　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第Ⅳ章　ヌカス遺跡の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　第１節　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　第２節　遺跡の層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　第３節　各トレンチの調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第Ⅴ章　嵐遺跡の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第１節　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第２節　遺跡の層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第３節　各トレンチの調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第Ⅵ章　今平遺跡の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　第１節　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　第２節　遺跡の層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　第３節　各トレンチの調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　第４節　遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第Ⅶ章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

表　目　次

第１表　遺跡地名表(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第２表　遺跡地名表(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

挿　図　目　次

第１図　南種子町の周辺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第２図　有尾遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第３図　茶木久保遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第４図　龍安坂遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第５図　新牧遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第６図　横峯Ｄ遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第７図　小牧遺跡採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第８図　摺久保遺跡の周辺地形図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第９図　　トレンチ配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第10図　　標準土層柱状模式図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第11図　　土層断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第12図　　出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第13図　ヌカス遺跡・嵐遺跡の周辺地形図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第14図　ヌカス遺跡トレンチ配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第15図　　土層断面図（３トレンチ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第16図　嵐遺跡トレンチ配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第17図　　標準土層柱状模式図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第18図　　土層断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第19図　今平遺跡の周辺地形図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第20図　　トレンチ配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第21図　　標準土層柱状模式図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第22図　　出土・採集遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第23図　　土層断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

図　版　目　次

図版１　摺久保遺跡遠景・土層（１トレンチ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
図版２　今平遺跡遠景・土層（２トレンチ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
図版３　摺久保遺跡近景・土層（１トレンチ）・遺物出土状況
　　ヌカス遺跡遠景・土層（３トレンチ，１トレンチ）・発掘作業風景・・・・33
図版４　嵐遺跡近景・土層（２トレンチ，４トレンチ・６トレンチ・12トレンチ）
　　発掘作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
図版５　今平遺跡近景・土層（８トレンチ，３トレンチ・９トレンチ・６トレンチ）
　　遺物出土状況・発掘作業風景・重機による埋め戻し ・・・・・・・・・・・35
図版６　表面採集遺物・摺久保遺跡出土遺物・今平遺跡出土遺物 ・・・・・・・・・36

第Ⅰ章 調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

南種子町教育委員会では，文化財の保護・活用を図るために開発機関とのあいだで事業区域内での文化財の有無，及びその取り扱いについて事前に協議し，諸開発事業との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）は，南種子町における中山間地域農村活性化総合整備事業種子島銀河地区と県営畑地帯農道網整備事業西之地区の計画策定にあたり，文化財の有無について南種子町教育委員会に照会した。

これを受けて南種子町教育委員会は，鹿児島県教育庁文化課（以下，文化課）に分布調査を依頼し，熊毛支庁土地改良課・南種子町農地整備課の４者で，平成６年４月27日と28日の二日間で当該地区について埋蔵文化財の分布調査を実施した。その結果，摺久保遺跡・ヌカス遺跡・嵐遺跡・今平遺跡（周知の遺跡の拡大）の存在が判明した。そこで，事業着手前に遺跡の範囲性格を把握するため，南種子町教育委員会が国庫補助事業により確認調査を実施することとなった。

確認調査は，平成７年８月21日から９月20日までの実働21日間行い，その後，南種子町教育委員会整理作業室と県立埋蔵文化財センターにおいて整理・報告書作成作業を行った。

第２節　調査の組織

調査主体者	南種子町教育委員会		
調査責任者	南種子町教育委員会	教育長	堂ノ脇大雄
調査事務担当者	南種子町教育委員会	社会教育課長	平畠　典男
	〃	体育文化係長	原　　隆昭
	〃	主事	河野　彰子
発掘調査担当者	南種子町教育委員会	文化財主事	坂口　浩一
	県立埋蔵文化財センター	文化財主事	肱岡　隆夫

発掘作業員

小西 和子，田中 真澄，川元 敏子，元川 シヅエ，古田 美智子，長田 よし子，西田 りえ子，浦邊 君江，安慶名 理恵子，古市 悦子，日高 ハツミ，寺川 順子，坂口 和子，峯山 鈴子，椙松 チワ子，鮫島 江美子，古市 次男，坂口 秀夫，鮫島 末一，門谷 秀男

整理作業員

河野三枝子，小浜由美子，岩崎重子，中屋弘子，竹之内礼子，有村明子，才川みどり

なお，整理作業において，鹿児島県考古学会長河口貞徳氏と鹿児島大学法文学部教授上村俊雄氏・同助手本田道輝氏に出土遺物についての指導助言をいただいた。

第３節　調査の経過

確認調査は，平成７年８月21日から平成７年９月20日まで行った。経過は日誌抄により以下記述する。

８月21日（月）　**ヌカス遺跡**発掘調査開始。作業用具の搬入・点検。
役場農地整備課の立会いのもとエリア確認・トレンチ設定（１～４）作業員へのオリエンテーションの後，作業開始。

22日（火）　1・2トレンチ表土剥ぎ取り。Ⅱ層（乳白色に鉄分の混入）の掘り下げ。
3・4トレンチⅡ層（客土の礫層）の剥ぎ取り。

23日（水）　1・2トレンチ作業員による掘り下げ。3・4トレンチで重機により客土層の除去。3トレンチの青灰色土層中に柴を用いた暗渠排水検出。写真撮影。
4トレンチの黒色土層中に畦状遺構検出。トレンチ配置図実測。

24日（木）　2トレンチ重機による掘り下げ。断面清掃の後実測・写真撮影。3トレンチ下層確認のため重機による掘り下げ。断面清掃。4トレンチ作業員による掘り下げ。各トレンチ共に遺構・遺物の検出なし。土層確認のため3トレンチと4トレンチの間に2×4mのトレンチを設定，掘り下げ。

28日（月）　1・3トレンチ湧水の排水作業・断面清掃。4トレンチ下層確認のため重機による深堀り。青灰色砂層より湧水。断面清掃・写真撮影・断面実測。湧水により壁面が崩落する。5トレンチ設定。重機による深堀り。
嵐遺跡1・3トレンチ設定。表土剥ぎ取りの後掘り下げ。

29日（火）　**ヌカス遺跡**1・3トレンチ写真撮影・断面実測。2～4トレンチ湧水が多く，危険防止のためロープを張る。**嵐遺跡**2・4トレンチを設定し掘り下げ。3トレンチより湧水。各トレンチの表土の下は客土の砂層。

30日（水）　**ヌカス遺跡**重機による埋め戻し作業。3トレンチ土層断面実測。
嵐遺跡1～4トレンチ掘り下げ終了。1・2トレンチより湧水。断面清掃。
3トレンチ土層断面実測・写真撮影。4トレンチ客土の砂層下より旧水田と思われる黒色腐植土層の検出。断面清掃。1～4トレンチ終了。5～12トレンチ設定表土剥ぎ取り。表土より約2mで湧水。4トレンチ付近は旧水田で湿地帯と思われる。

31日（木）　2・4トレンチ写真撮影・土層断面実測。5～12トレンチ設定。5・7・11・12トレンチ表土剥ぎ取り。

9月1日（金）　1トレンチ土層断面清掃・実測・写真撮影。5・7・11・12トレンチ掘り下げ完了。トレンチ配置図実測。

2日（月）　6・8・10トレンチ掘り下げ。1～3トレンチ下層確認のため深堀りの後，埋め戻し・終了。13トレンチ設定・表土剥ぎ取りの後掘り下げ。

5日（火）　4トレンチ深堀り，埋め戻し。5・8～12トレンチ土層断面清掃・実測・写真撮影。14・15トレンチ設定，表土剥ぎ取りの後掘り下げ。13・15トレンチ掘り下げ完了。遺構・遺物検出無し。

6日（水）　13～15トレンチ土層断面清掃・実測・写真撮影。トレンチ配置図実測。重機による埋め戻し作業（10～15トレンチ）。作業用具を摺久保遺跡へ移動。
摺久保遺跡トレンチ2本設定。表土剥ぎ取り。2トレンチよりアカホヤが検出される。

7日（木）　**摺久保遺跡**1トレンチ，アカホヤの掘り下げ。2トレンチ，アカホヤ下層の茶褐色粘質土層（早期包含層）より遺物出土。

今平遺跡１～７トレンチ設定。重機により表土（道路砕石）の除去。１・２トレンチ掘り下げ。１トレンチより礫，２トレンチより小土器片出土。
嵐遺跡トレンチ配置図実測。

8日（金）　摺久保遺跡１・２トレンチ縄文時代早期土層の掘り下げ。
２トレンチより遺物出土。
今平遺跡１トレンチ礫の写真撮影・掘り下げ，赤褐色礫層検出。
３・４トレンチをアカホヤ上面まで掘り下げ。
５・６・７トレンチ早期土層の掘り下げ。

11日（月）　摺久保遺跡１・２トレンチ早期土層の掘り下げ。１トレンチ茶褐色土層中位にブロック状の黄褐色火山灰層検出。２トレンチ遺物写真撮影・実測・取り上げ。
今平遺跡６・７トレンチ黄褐色土層掘り下げ。

12日（火）　摺久保遺跡１・２トレンチ掘り下げ。
今平遺跡３トレンチ早期土層掘り下げ。６・７トレンチ土層断面実測・写真撮影。
５・６トレンチ下層確認のため重機による深堀り。６・７トレンチ埋め戻し。
９・10トレンチ設定。９トレンチでアカホヤ直下より土器出土。

13日（水）　摺久保遺跡１・２トレンチ深堀り。２トレンチ埋め戻し。
今平遺跡１トレンチ土層断面実測・写真撮影。３トレンチ早期層の掘り下げ９トレンチ遺物出土状況の写真撮影・取り上げ。

14日（木）　摺久保遺跡１トレンチ掘り下げ・土層断面清掃。１・２トレンチ写真撮影。
今平遺跡１トレンチ埋め戻し。８トレンチ設定。遺物包含層相当層が残存しており，範囲確認のため東へ拡張する。２・３・９・10トレンチ掘り下げ。

16日（土）　摺久保遺跡１・２トレンチ土層断面実測。全景写真撮影。

18日（月）　今平遺跡２～４・８トレンチ掘り下げ。９トレンチ土層断面清掃。10トレンチで早期土層より出土の礫取り上げ・写真撮影・実測の後掘り下げ。トレンチ配置図実測。

19日（火）　今平遺跡２・３・５・９・10トレンチ土層断面実測・写真撮影の後埋め戻し４トレンチ土層断面清掃・写真撮影。８トレンチ掘り下げ。10トレンチ重機により深堀り・断面清掃。作業用具の整理。

20日（水）　今平遺跡４・５トレンチ土層断面実測の後埋め戻し。遺跡全景写真撮影。
摺久保遺跡埋め戻し。　全調査終了。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　自然環境

摺久保遺跡・ヌカス遺跡・嵐遺跡・今平遺跡は鹿児島県熊毛郡南種子町に所在する。

南種子町の所在する種子島は，大隅諸島の一つであり，大隅半島南端の佐多岬の南東約40㎞の海上にある。種子島の自然位置は，島の北端の御崎は北緯30度50分，南端の門倉岬は北緯30度21分，東経131度５分から130度51分の間に位置している。島の長軸方向は北北東から南南西に延びており，九州本土や琉球列島の配列にほぼ近い。面積は447.09㎢で，南北52㎞，幅12㎞の細長い島で地峡部では約６㎞にしか過ぎない。また，海岸線の長さは約146.36㎞で，最高海抜282.3ｍの比較的平らな島である。九州最高峰の宮之浦岳（標高1935ｍ）を持つ隣接する屋久島と比較すると，地形的には対照的である。また，面積的には狭いが逆に海岸線の長さは種子島のほうが長い。

地質構造上は熊毛累帯に属し，東海岸と西海岸では景観がやや異なるが，地形は東西方向に走る断層によって北部・中部・南部の三区域に区分することができる。島全体には海岸段丘がよく発達しており，八段を数えることができる。北部地域は，東海岸で海岸段丘が発達しており，段丘面が耕地として広く利用されている。中部地域では，東西の海岸及び北側の断層に沿って段丘が発達しており，北部地域との境においては断層崖に沿って耕地や水田がよく開けている。南部地域は，中種子町中央部標高120ｍの平坦面から東西両岸へ緩斜し，砂丘へとつながる。島間から
門倉崎にかけての西海岸には海岸段丘がよく発達しており，一方東海岸は著しく開析をうけ谷系が顕著である。

基本地層は，熊毛層群とよばれる砂岩・頁岩の互層であり，この上を不整合に茎永層群及び増田層・長谷層・竹ノ川層が覆っている。さらに，これらの既存岩石を覆って全島に火山灰起源の風成層がみられる。沖積世堆積物としては，旧砂丘層・現砂丘・河川堆積物がみられる。南種子町においては，西海岸全域にわたって種子島の基盤をなす熊毛層群がみられる。南種子町の中央部上中付近から東海岸へかけては，東へ20度前後の傾斜をもって，田代層・河内層・大崎層の順に茎永層群が基盤の熊毛層群を覆っている。

南種子町は，種子島の南部を占め東西南の三方が海に面し，北は中種子町と接する面積110.37㎢の町である。地形は，南部地域の一部をなし，内陸部は海抜200ｍ内外の丘陵地帯で平坦な台地を形成している。これらの平坦地は，牧草地・耕作地として利用されているが，明治以降の開拓によるものが多い。また，台地上には150～180ｍの高台に湧水やため池が点在し，水田耕作も行われている。島間から門倉崎にかけての西海岸では海岸段丘がよく発達しており，高度100ｍの段丘がいちばん顕著で，海岸線に沿って南北にのびている。また，この下位に高度80ｍの段丘面があり集落を形成するが，急傾斜をなして海に迫っているため水田は少ない。

南端の門倉岬は，1543年に鉄砲の伝来した地として有名で，南東海岸には，我が国最大の宇宙開発基地種子島宇宙センターがある。

今回調査した摺久保遺跡は，行政区分上は南種子町大字中之上字摺久保（長谷地区）に所在する。地理的には，役場のある上中市街地より北へ直線距離にして約3.5㎞にあり，国道58号より約300ｍ

西方に位置する。遺跡の所在する長谷地区は，南種子町で最も高い位置にあり，原尾の標高212.2ｍを最高点に上中地域へ緩やかに傾斜している。また，標高約185ｍの新長谷には，ため池があり，水田が開けている。

南種子町は，明治19年より各地で開拓が進められてきた。遺跡の所在する摺久保地区は，昭和37年に約41haが開拓パイロット事業により開墾されている。遺跡の周辺は畑地の広がる平地で，牧草地，耕作地として広く利用されている。

遺跡は，その摺久保地区の最も東に位置し，標高約190ｍの平地に立地する。東には小谷が北方へと延びており，湧水による小川が南流する。

ヌカス遺跡と嵐遺跡は，南種子町大字平山に所在する。平山の浜田集落入口の西側に，砂質の低湿地帯が広がる。ここは安政４年（1857年）に種子島で最初に塩田式製塩が行われた跡で，現在はこの塩田跡を取り囲むようにメヒルギが群生している。

両遺跡は，上中市街地より北東へ約７㎞の標高約４ｍ前後の低地に立地する。ヌカス遺跡は，南と東に広葉樹の山林を背後に，北西には標高約３ｍの水田地帯が広がる山裾に位置する。嵐遺跡は，昭和51年から53年にかけて構造改善事業が実施された平地の中央に位置する。遺跡の西方には，縄文時代と弥生時代の遺物が採集された浜田嵐遺跡がある。

今平遺跡は，上中市街地より南西方向に直線距離にして約4.5㎞の位置にある。南種子町大字西之字今平に所在する。遺跡の周辺は，昭和50年から53年にかけて県営圃場整備事業を実施した地域である。遺跡は，この台地の最東端に位置し，標高約125～135ｍで南東に延びた舌状台地に立地する。遺跡の北と南は谷系に挟まれており，東方は約65ｍの比高差をもって盆地の田代集落があり，この間を鹿鳴川が蛇行しながら東シナ海へと南流している。遺跡の北西には隣接して田代遺跡があり，縄文時代の塞ノ神式土器が採集されている。

第２節　歴史的環境

大隅諸島の考古学的研究は，古くは若林勝郎氏や佐藤伝蔵氏によって始められ，昭和20年代に三友国五郎・国分直一・河口貞徳・盛園尚孝の諸氏によって西之表市本城遺跡，上屋久町一湊遺跡，口永良部島城ノ平遺跡が調査され，次いで中種子町苦浜貝塚，輪之尾遺跡，南種子町一陣長崎鼻貝塚など相次いで調査された。さら次第に明らかになりつつある。

本町の遺跡分布は，表(1)・(2)及び図(1)のとおりであるが時代ごとに略述してみたい。

旧石器時代では，横峯Ｃ遺跡(8)がある。西海岸から約２㎞内陸部の屋久島を望む標高120ｍの台地上に位置する。遺跡周辺は幾つもの小さな谷が入り込み，いわゆる八つ手状を呈している。平成４年度に圃場整備事業に伴う発掘調査で，ＡＴ火山灰層の下位から日本最古と考えられる３万年前の礫群が２基検出された。本遺跡はその重要性から，事業地区から除外され現状保存がなされた。

縄文時代草創期の遺跡として，横峯Ｄ遺跡(9)がある。横峯Ｃ遺跡から谷を越えた台地上に位置し隆帯文土器が出土した。種子島での草創期の遺跡は，西之表市の奥ノ仁田遺跡や中種子町の三角山遺跡などがある。

縄文時代早期の遺跡では，横峯Ｂ遺跡(7)・横峯Ｃ遺跡(8)・赤石牟田遺跡(16)・小牧遺跡(15)などがある。

横峯Ｃ遺跡は，アカホヤ火山灰層の下位より集石遺構５基と，苦浜式土器・轟１式土器・塞ノ神

式土器，並びに石鏃・石匙・磨製石斧・磨石・敲石・石皿等の石器が出土している。また，本遺跡では大分県姫島産の黒曜石剥片の出土が見られ，注目されている。

赤石牟田遺跡は，新長谷から上里に向かう道路沿いの南向きに傾斜した畑地にあり，塞ノ神式土器・轟式土器・曽畑式土器のほかに磨製石斧・石匙・黒曜石製石鏃・黒曜石剥片なの散布がみられる。

小牧遺跡は，標高約130mの中央台地に位置する。台地は遺跡付近から南西へと緩やかに傾斜して，谷部を流れる小川までは約200mの距離にある。遺物としては，塞ノ神式土器・磨石が出土している。

縄文時代前期の遺跡では，平六間伏遺跡(10)・赤石牟田遺跡(16)がある。

平六間伏遺跡は，杭凪集落のある台地から西海岸へ延びる舌状台地上標高約100mにあり，台地の北縁辺部の谷に接する地点に立地する。

遺跡の北側は急崖となり，那辺川の上流にあたる。遺物は，轟B式類似の土器などが採集されている。

縄文時代中期の遺跡は，現在確認されていない。

縄文時代後期の遺跡では，田尾遺跡(12)・野大野A遺跡(22)・松原遺跡(10)・茶木久保遺跡(41)・藤原小田遺跡(45)などがある。

田尾遺跡は，島間の西海岸に舌状に張り出した台地の縁辺部にある遺跡で，松山式土器・市来式土器・納曽式土器・一湊式土器とともに磨製石斧・打製石斧・石皿・敲石などが出土している。

野大野A遺跡は，海岸段丘上の標高170～190mの台地上にあり，東側を平行して南流する鹿鳴川へ，小さい谷が幾つも落ち込んでいる。この小さい谷頭に遺跡が立地する。遺物は，一湊式土器の他に磨石・敲石・凹石・石皿が出土し，遺構は石皿・磨石を集積した土坑が検出された。

松原遺跡は，宮瀬川・郡川・鹿鳴川などによってつくり出された沖積平野が広がると共に，海岸に新旧の砂丘が発達している南海岸にある。この砂丘で堰き止められた湖が宝満の池であり，赤米お田植祭りで著名な宝満神社がある。遺跡は，宝満の池と赤米お田植祭りの行われる御神田の隣接地にある。出土遺物には，市来式土器・丸尾式土器の外に指宿式土器・土師器・須恵器・集石・石斧・磨石・石皿などがある。

縄文時代晩期の遺跡では，一陣長崎鼻貝塚(29)がある。

一陣長崎鼻貝塚の近くを流れる郡川の河口には，高さ約37mの小高い山があり，通称長崎鼻とよばれている。遺跡はこの長崎鼻から約70～80m離れた海岸線に面した砂丘にある。出土遺物には，黒川式土器のほかに人骨・獣骨・磨製石斧・打製石斧・敲石などの石器と骨製かんざし・牙製垂飾品・貝輪などの出土が見られる。

弥生時代になると，昭和32年から34年にかけて調査された広田遺跡(30)が著名で，他に松原遺(10)・本村塚の峯遺跡(26)・本村丸田遺跡(27)・本村宇都遺跡(27)・浜田嵐遺跡(20)がある。

広田遺跡は，平山広田の国有林内に所在する。海抜は約6mの砂丘に位置し，砂丘の北を広田川が東流し海へ注いでいる。地形は，海岸に面する前縁が最も高く，背後の水田地帯へ緩やかに傾斜している。この遺跡は埋葬遺跡で，100体余の人骨と多数の副葬品が出土した。また，日本最古の文字と考えられる「山」の貝符は，著名である。

歴史時代では，昭和６０年に発掘調査が行われ，平安時代の掘立柱建物跡の検出された本村丸田遺跡(26)が知られている。遺跡の南東の低地は沖積平野で，区画整備された種子島最大の水田地帯が広がり，遠方に太平洋を眺望できる。海岸部には砂丘が発達している。遺跡は海抜28.7ｍで丘陵末端の小鞍部を開削した小平地であり，かつては畑地であった。出土した遺物には，土師器・須恵器・石斧などがある。

【 参考文献 】

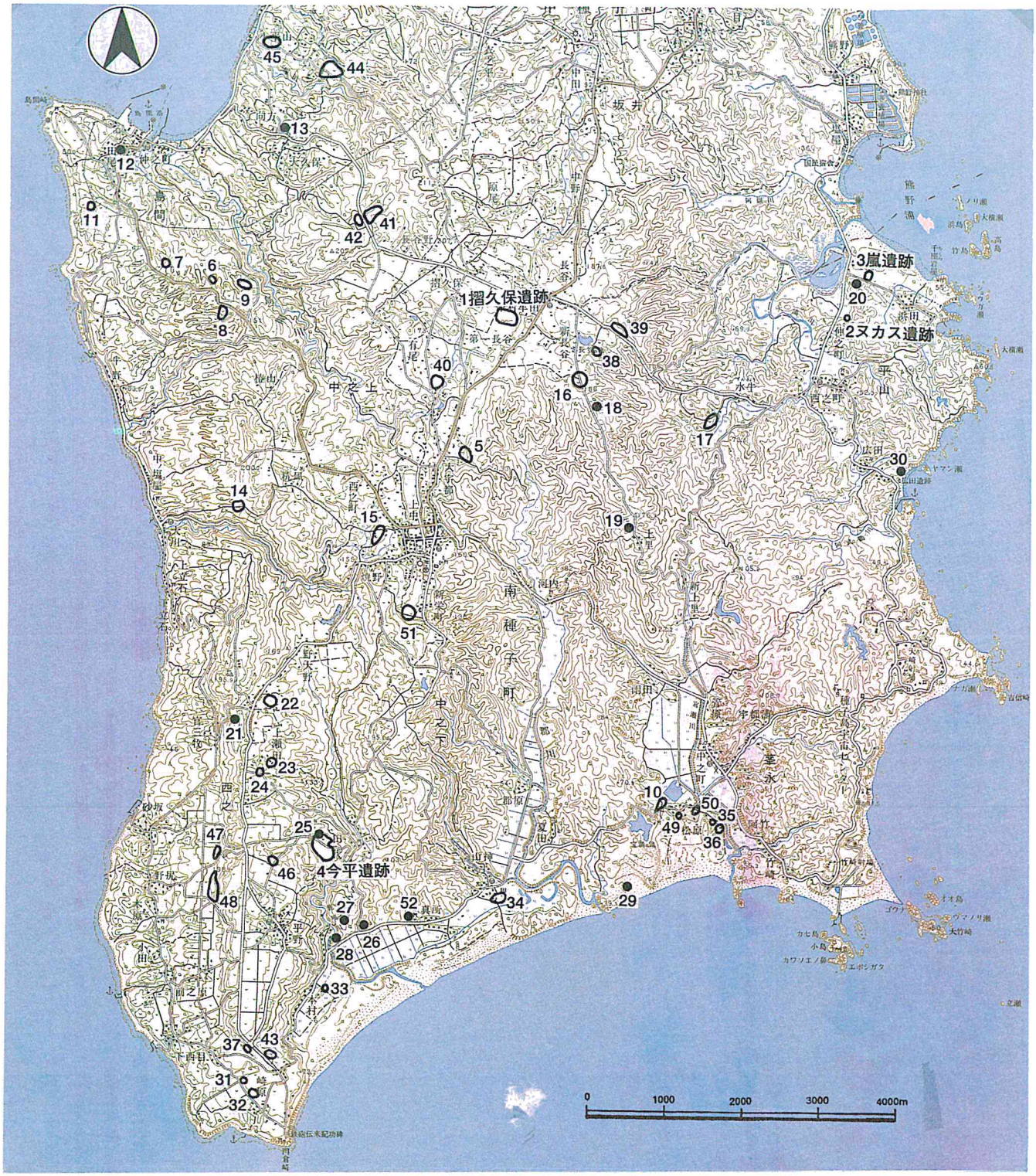
南種子町教育委員会	「本村丸田遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	1986
〃	「小牧遺跡･平六間伏遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	1988
〃	「野大野A遺跡･上瀬田A遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	1991
〃	「横峯遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	1993
〃	「松原遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	1993
盛園尚孝	「広田遺跡に関する調査報告書」		1995
南種子町郷土誌編纂委員会	「南種子町郷土誌」		1987

第１表　遺跡地名表（１）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地　形	時　　代	遺　物　等	備　　考
1	摺久保	中之上　摺久保	台　地	弥生	土器片	平成６年分布調査
2	ヌカス	平山　ヌカス	〃	中世	〃	〃
3	嵐	平山　　嵐	平　地	縄文	〃	〃
4	今平	西之　今平	〃	縄文	〃	〃
5	石ノ峯	中之上　石ノ峯	台　地	縄文（早期）	石鏃・土器片	平成５年分布調査
6	横峯Ａ	島間　横峯	〃	縄文	土器片	平成３年分布調査
7	横峯Ｂ	〃	〃	縄文	土器片	平成４年発掘調査
8	横峯Ｃ	〃	〃	旧石器・縄文（早期）	礫群・石鏃・石斧・敲石・塞ノ神式・苦浜式・轟式	〃
9	横峯Ｄ	〃	〃	縄文（草創期）	隆帯文土器	平成７年分布調査
10	松原	茎永　松原	平　地	縄文・弥生・奈良・平安	土師器・集石・須恵器・青磁・市来式・丸尾式・指宿式・石斧・磨石・石皿	平成４年発掘調査
11	下鹿野	島間　下鹿野	台　地		石鏃	平成２年分布調査
12	田尾	島間　田尾	〃	縄文（後期）	市来式・磨製石斧・磨石・敲石・石皿	表面調査による出土
13	上妻城跡	島間　向方	〃	中世		中世城館跡（昭和58年県文化課調査）
14	平六間状	中之上　平六間状	〃	縄文	土器片・石斧	昭和62年発掘調査
15	小牧	中之上　小牧	〃	縄文（早期）	塞ノ神式・磨石	〃
16	赤石牟田	中之上　赤石牟田	〃	縄文（早期・前期）	曽畑式・塞ノ神式・石鏃・黒曜石片・石匙・石斧・集石	平成４年分布調査
17	上平	平山　上平	〃	縄文（前期）・中世	縄文土器・石鏃・青磁	〃
18	長谷	長谷	〃	縄文（早期）	吉田式	表面調査による出土
19	上里城跡	茎永　上里	〃	中世		中世城館跡（昭和58年県文化課調査）
20	浜田嵐	平山　浜田　嵐	平　地	縄文・弥生（中期）	縄文土器・弥生土器片（須玖式）	表面調査による出土
21	野大野	西之	台　地	縄文（後期）	市来式・磨製石斧・敲石	表面調査による出土
22	野大野Ａ	中之下　野大野	〃	〃	一湊式・敲石・磨石・石皿	平成２年発掘調査
23	上瀬田Ａ	中之下　上瀬田	〃	縄文	土器片	〃
24	上瀬田Ｂ	中之下　上瀬田	〃	〃	〃	昭和63年分布調査
25	田代	西之	〃	縄文（前期）	塞ノ神式・土器片	平成７年分布調査
26	本村　塚の峯	西之　本村　塚の峯	斜面地	弥生（後期）	弥生土器片	

第２表　遺跡地名表（２）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地形	時　　代	遺　物　等	備　　考
27	本村　丸田	西之　本村　丸田	台　地	縄文（後期） 弥生（後期） 平安	指宿市・市来式・曽畑式・石斧・磨石・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	昭和60年発掘調査
28	本村　宇都	西之　本村　宇都	斜面地	弥生（後期）	弥生土器	
29	一陣長崎鼻貝塚	中之下　一陣	砂　丘	縄文（晩期）	黒川式・磨製石斧 骨製髪飾り・骨錐 貝輪・人魚骨・貝類	昭和31年発掘調査
30	広田	平山　広田	〃	弥生（中期） （後期） 古墳（前期）	弥生土器・人骨113体余・貝製品・紡錘車・石錐・鉄製釣針・獣魚骨・貝類	昭和32～34年調査 埋葬址考古学雑誌43巻3号，日本考古学協会発表（24回総会），福岡医学雑誌52巻8号，種子島民俗集7号広田の民俗
31	銭亀	西之　銭亀	台　地	縄文（早期）	土器片	平成４年分布調査
32	駒取野	西之　駒取野		縄文（早期）	〃	〃
33	西之大宮田	西之　大宮田	砂　丘	中世	染付・土師器	〃
34	真所汐入	中之下　東真所汐入 西真所汐入	〃	〃	染付・青磁・白磁・土師器	〃
35	友心汐入Ａ	茎永　友心汐入	〃	〃	土師器	〃
36	友心汐入Ｂ	〃	〃	〃	〃	〃
37	安久保	平山　安久保	台　地	縄文（早期）	吉田式土器	〃
38	福ヶ野Ａ	平山　福ヶ野	〃	縄文	土器片	〃
39	福ヶ野Ｂ	〃	〃	縄文（前期・後期）・古墳	縄文土器・成川式土器	〃
40	有尾	中之上有尾	〃	縄文	土器片	平成7年分布調査
41	茶木久保	島間　茶木久保	〃	縄文（後期）	土器片・石鏃	〃
42	高峯	島間　高峯	〃	縄文	土器片	〃
43	龍安坂	西之　龍安坂	〃	縄文（早期）	前平式土器	〃
44	北野天神	島間　小平山	〃	古墳	土器片	〃
45	藤原小田	島間　藤原小田	〃	縄文（後期）	〃	〃
46	新牧	西之　新牧	〃	縄文	〃	〃
47	塩浦口	西之　塩浦口	〃	〃	〃	〃
48	橋久保	西之　橋久保	〃	〃	〃	〃
49	上松原汐入	茎永　上松原汐入	砂　丘	中世	製塩土器	
50	松原山	茎永　松原山	〃	縄文	台石	
51	西大曲	中之下　西大曲	台　地	〃	土器片	平成7年分布調査
52	鰐口	中之下　真所		応永		（県）昭42.3.31考古資料



第1図　南種子町の周辺遺跡

第３節　周辺遺跡

有尾遺跡(40)

(1)　立　　地

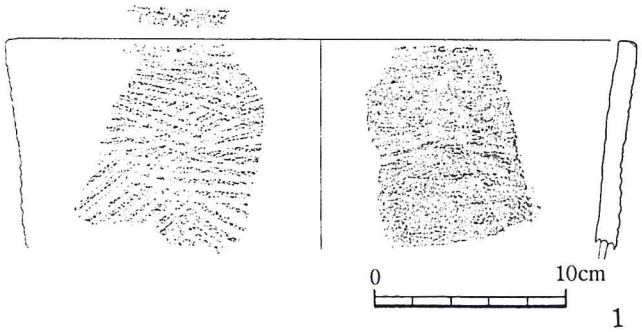
有尾遺跡は，南種子町大字中之上字有尾（長谷地区）に所在する。上中市街地より約2.4㎞北に位置し，標高約160ｍの南東に傾斜しながら小さく突き出た台地上に立地する。遺跡の東下には，東シナ海に注ぐ島間川の上流がある。

(2)　時　　代

縄文時代

(3)　遺　　物（第２図－１）

畑地の天地返しにより，採集された土器である。型式は不明であるが，円筒形の深鉢と思われる。口径は33.2㎝を測る。胴部には，篦による条痕が綾杉状に施文され，口唇部には刻みが施されている。胎土に石英・砂粒の外に小豆大の白礫を少量含む。色調は茶褐色で焼成は普通である。縄文時代早期相当の土器と考えられる。



第２図　有尾遺跡採集遺物

茶木久保遺跡

(1)　立　　地

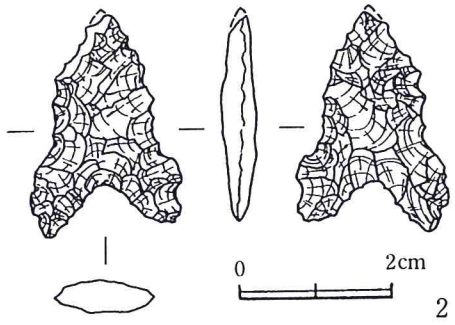
茶木久保遺跡は，南種子町長谷地区に所在する。上中市街地より北西に直線距離にして約4.5㎞の町道長谷島間線に隣接して位置する。標高は約190ｍで，北東に傾斜する台地上に立地する。町道を挟んで西側には，縄文時代の遺物が採集された高峯遺跡がある。茶木久保遺跡は，平成６年度に農道整備業に伴う確認調査が実施された。道路計画部分を調査の結果，昭和39・40年に実施した土地改良構造改善事業により削平を受けており，遺物包含層は存在しないことが確認できた。

(2)　時　　代

縄文時代

(3)　遺　　物（第３図－２）

第３図は，この遺跡で採集された打製石鏃である。石材は，不純物を殆ど含まない良質の黒曜石である。風化し濃い黒灰色であるが，シャープな剥離面は漆黒を呈する。最大長2.9㎝，重さ1.79ｇを測る。



第３図　茶木久保遺跡採集遺物

龍安坂遺跡(49)

(1)　立　　地

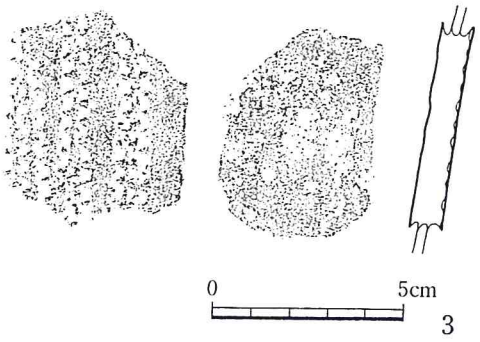
龍安坂遺跡は，南種子町最南端にある鉄砲伝来で著名な門倉岬より，北へ約1.2㎞の地点に位置する。遺跡の周囲は海岸段丘が発達しており，眼下には太平洋と東シナ海を望むことができ，標高100ｍ前後の南東に傾斜した舌状台地に立地する。東方には海岸線を隔てて種子島宇宙センターが眺望できる。

(2) 時　　代

縄文時代

(3) 遺　　物（第４図－３）

円筒形土器の胴部と思われる。外面は，ミガキ調整のあと貝殻腹縁部によりやや間隔を置いて刺突を施している。内面はナデ調整である。焼成は良好で，胎土に石英・角閃石・砂粒を含む。赤褐色を呈す。縄文時代早期に位置づけられる前平式土器である(注1)。



第４図　龍安坂遺跡採集遺物

新牧遺跡(46)

(1) 立　　地

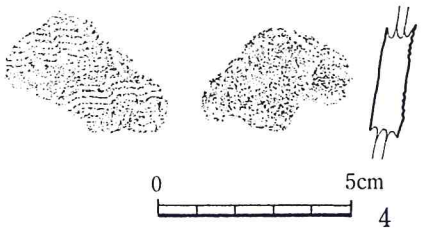
新牧遺跡は，今回調査された今平遺跡の南西約700ｍの台地上に位置する。標高は約164ｍを測り，西から東へ傾斜している。周辺は，昭和50～53年度にかけて圃場整備事業が実施されている。

(2) 時　　代

縄文時代

(3) 遺　　物（第５図－４）

胴部と思われ，ナデ調整の後に貝殻腹縁部による波状の条痕が観察される。小片のため型式は不明である。



第５図　新牧遺跡採集遺物

横峯Ｄ遺跡(9)

(1) 立　　地

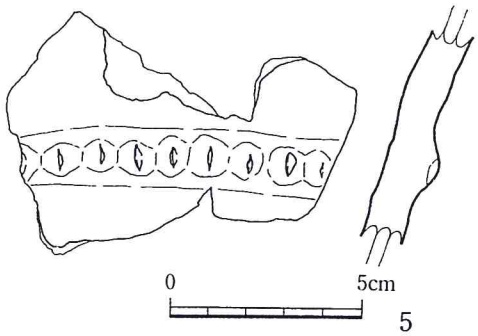
横峯Ｄ遺跡は，南種子町島間に所在する。上中市街地から北西方向に約4.5㎞の距離にある。平成４年に発掘調査された横峯Ｃ遺跡から北東へ約400ｍの，一つ谷を隔てた標高約110ｍを測る舌状台地上に立地する。

(2) 時　　代

縄文時代

(3) 遺　　物（第６図－５）

鉢の頸部か或いは胴部と思われる。器面に横位に粘土紐を貼り付け，その隆帯を指頭圧痕で爪痕まで残る。色調は，表裏両面とも赤褐色を呈し，胎土には石英・砂粒等が確認できる。極めて軟質で磨滅も著しい土器である。調整などは判別しがたい。この遺物は，開墾された畑地面の黄褐色土層中で採集されたものであり，同一固体と思われる土器片の複数の散布が見られた。現地形は，旧地形よりかなりの削平を受けており，本遺物は辛うじて防風帯に残存するアカホヤ火山灰から下方へ約１ｍの地点で採集された。種子島の縄文時代早期の遺物がアカホヤ火山灰直下の明茶褐色土層から出土することから，この遺物は草創期の遺物であることが推測される。種子島の西之表市奥ノ仁田遺跡または中種子町三角山遺跡で出土している隆帯文土器に類似する(注2)。



第６図　横峯Ｄ遺跡採集遺物

小牧遺跡(15)

(1) 立　　地

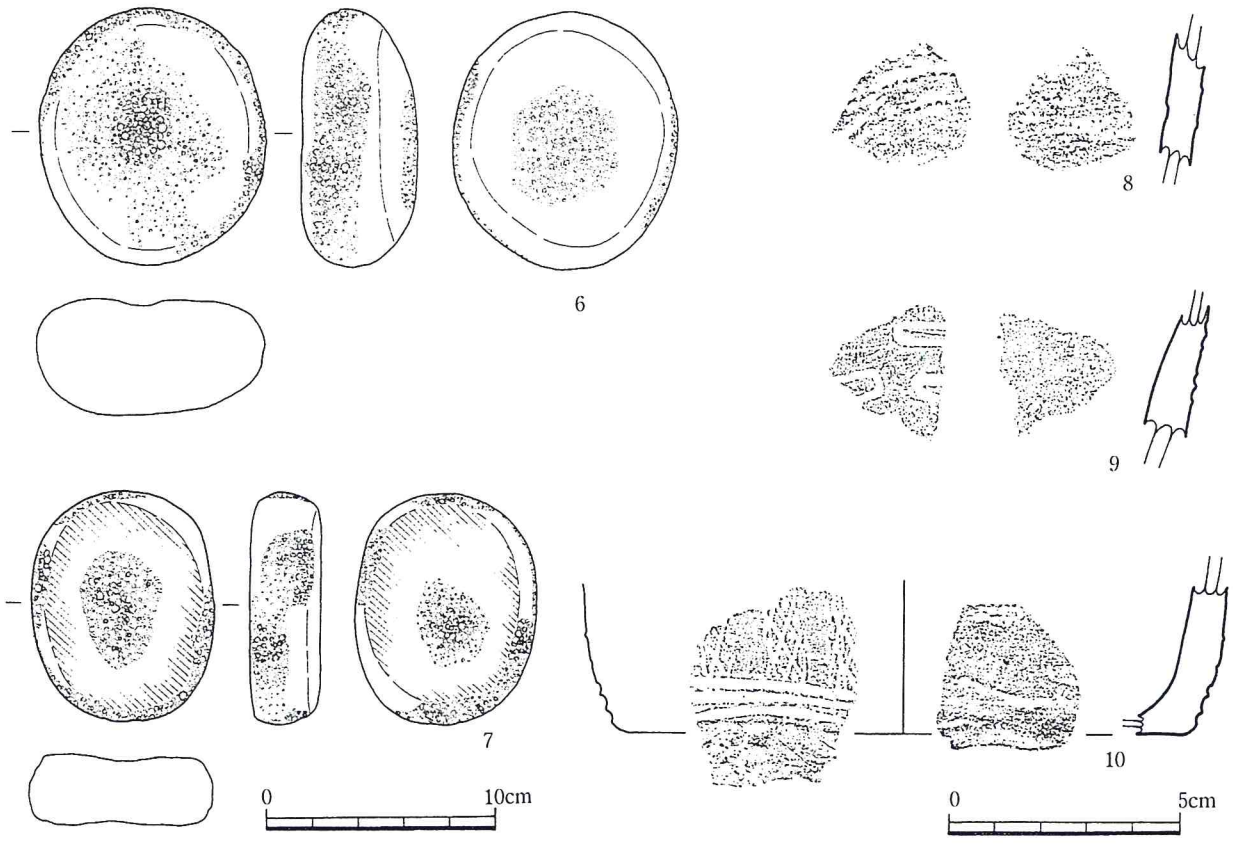
小牧遺跡は，役場の西北約700ｍにあり，遺跡の東西を東シナ海へ注ぐ大川川の支流に挟まれた標高約140ｍを測る舌状台地上に位置する。遺跡の北方約150ｍには，昭和60年に発掘調査を実施した小牧遺跡があり，今回の分布調査で本地点は小牧遺跡の範囲に含めることとした。

(2) 時　　代

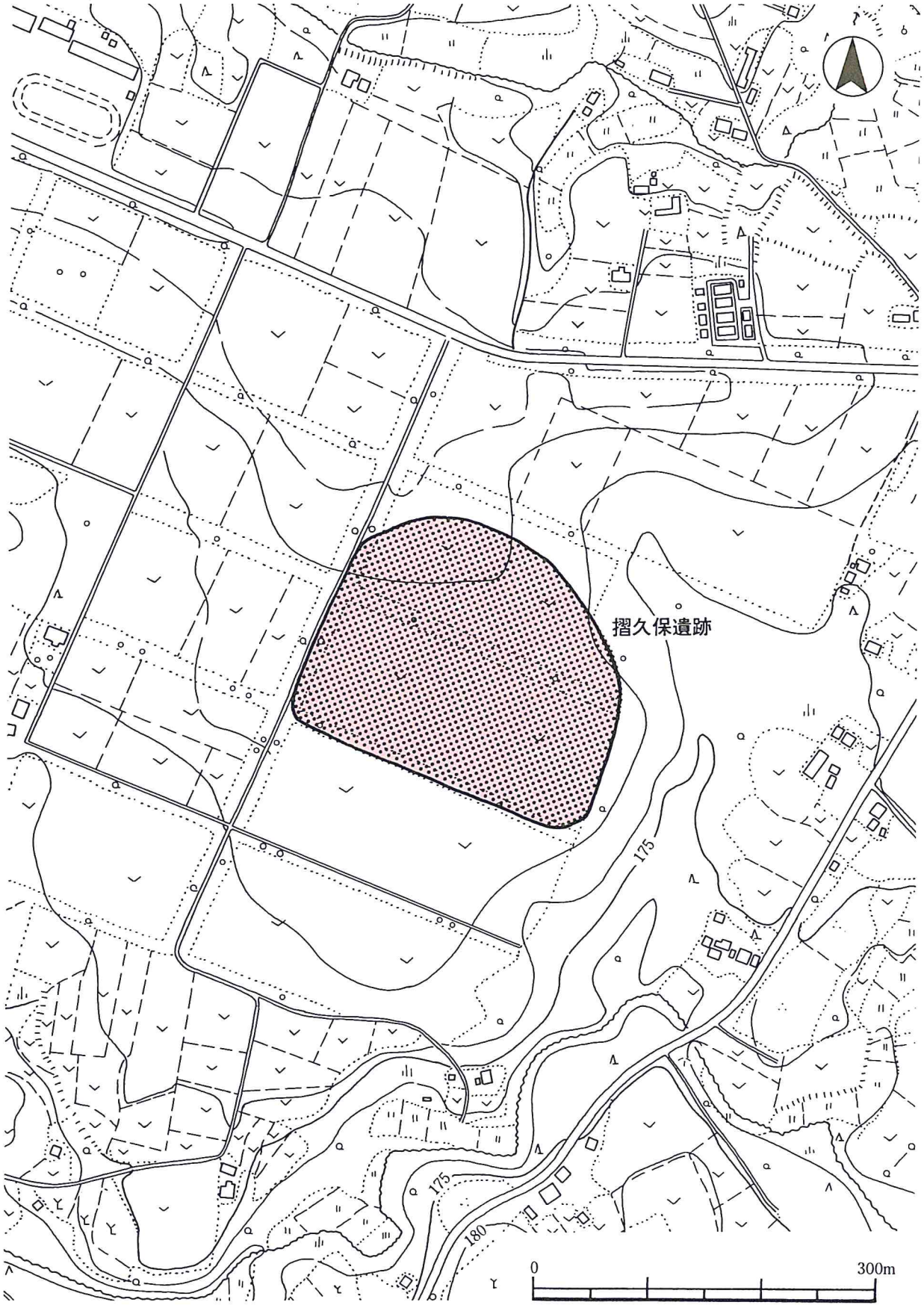
縄文時代

(3) 遺　　物（第７図）

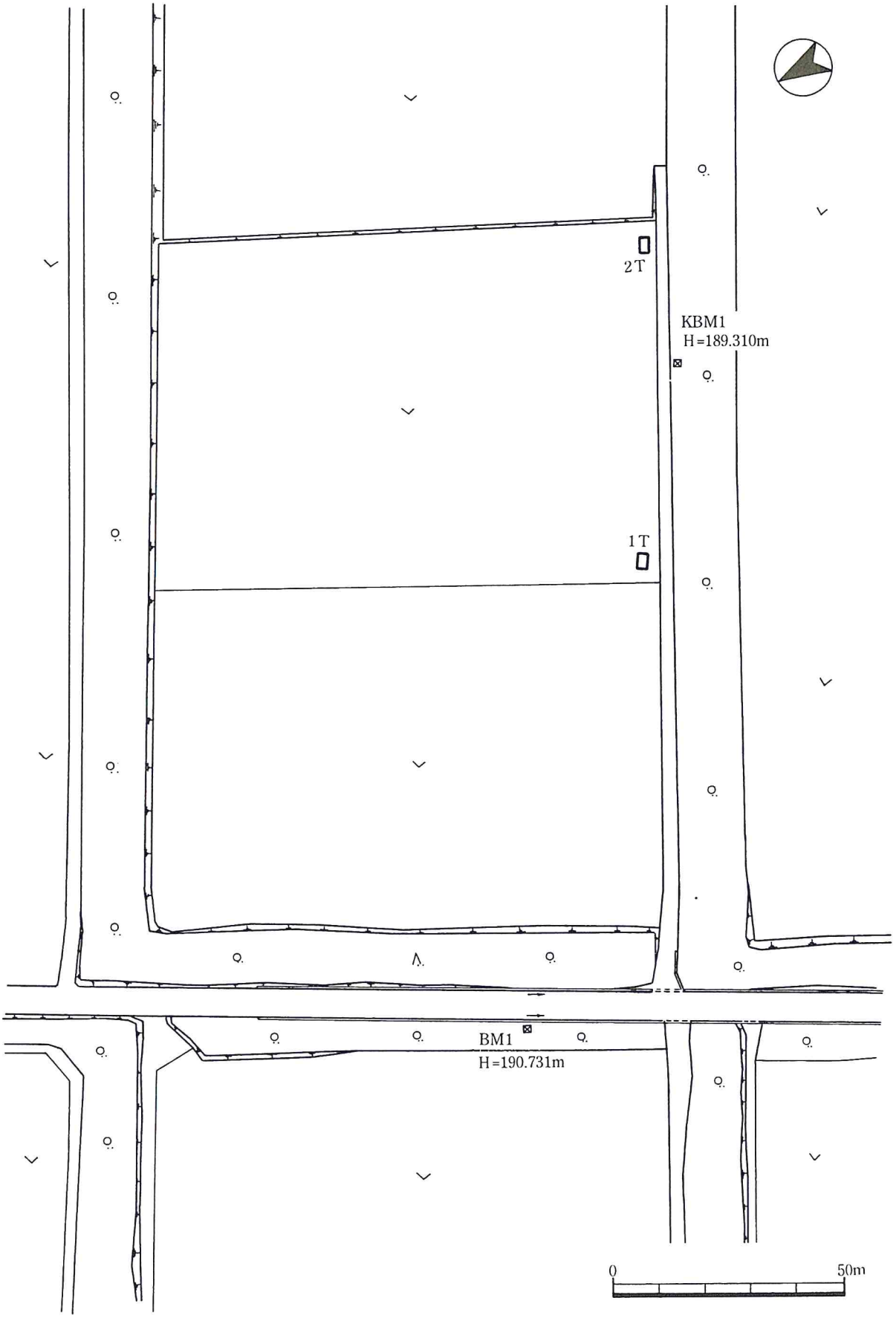
６は敲石である。砂岩製の円礫で周囲と表裏面に敲打の痕がみられる。表面には窪みがある。７は敲石と磨石を兼ねている。石材は石英斑岩である(注3)。表裏両面に窪みと磨面を持つ。重さは，６が797ｇ，７が392ｇを測る。８は胴部付近の土器片と思われ，微隆起文に篦刻みを施してある。胎土は石英・角閃石・砂粒がみられ，色調は外面が暗褐色で内面が茶褐色を呈する。焼成は良い。縄文時代早期のものと思われる。９は篦状施文具による浅い沈線を施している。塞ノ神式土器の口縁部と類似する文様がある。10は土器の底部で小型の鉢である。無節の撚糸文を縦位に区画を持たず施文してあり，最下部には，篦による三条の浅い沈線を施してある。塞ノ神式土器に比定される(注4)



第７図　小牧遺跡採集遺物



第8図　摺久保遺跡の周辺地形図



第9図　トレンチ配置図

第Ⅲ章　摺久保遺跡の調査

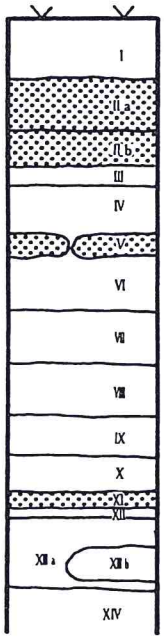
第１節　調査の概要

本調査は，中山間地域農村活性化総合整備事業種子島銀河地区によるかんがい施設整備で，農業用水の供給を目的とするパイプライン布設工事に伴う遺跡存在確認のための事前調査である。

分布調査により確認された遺跡の中央部に２×３ｍのトレンチを２本設定し，人力により層ごとに掘り下げを行った。その結果，２トレンチで，鬼界カルデラを起源とするアカホヤ火山灰層の下位より縄文時代早期の遺物が出土した。１トレンチでは包含層は存在したが，遺構・遺物の検出はされなかった。

第２節遺跡の層位

本遺跡の基本的層位は，第10図のとおりである。



第10図標準層位模式柱状図

Ⅰ　層 表土耕作土（黒色腐植土）
Ⅱａ層 黄橙色土（アカホヤ火山灰）
Ⅱｂ層 黄白色土（幸屋火砕流）パミスが多い。
Ⅲ　層 明茶褐色粘質土（縄文時代早期包含層）
Ⅳ　層 茶褐色粘質土
Ⅴ　層 黄橙色土（火山灰）
Ⅵ　層 茶褐色粘質土（Ⅳ層よりやや軟質）
Ⅶ　層 黄褐色粘質土（固く締まる）
Ⅷ　層 黄褐色粘質土（軟質で粘性が強い）
Ⅸ　層 淡茶褐色粘質土
Ⅹ　層 黄褐色粘質土
Ⅺ　層 黄橙色土（ＡＴ火山灰）
Ⅻ　層 黒色粘質土
ⅩⅢａ層 赤茶褐色粘質土（極く軟質で粘性が強い）
ⅩⅢｂ層 褐色粘質土
ⅩⅣ　層 黒褐色粘質土（固く粘性が強い）

第３節各トレンチの調査

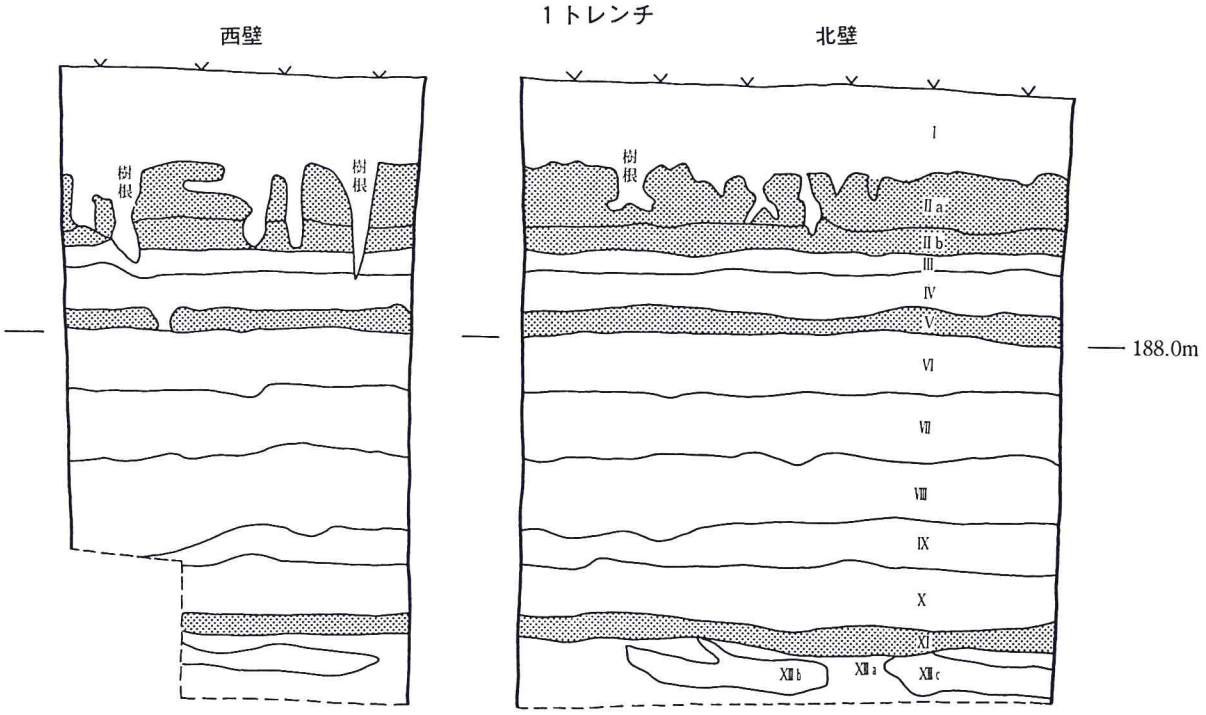
１トレンチ

Ⅱａ層・Ⅱｂ層は，鬼界カルデラを噴出源とするアカホヤ火山灰と思われる。Ⅴ層は，黄橙色火山灰層で茶褐色粘質土でサンドイッチ状になっており，固く締まっている。噴出起源は特定できないが，安城火山灰（仮称）(注5)と思われる。Ⅸ層は，軟質で粘性が強く斑になっている。

Ⅺ層は，ＡＴ火山灰と思われ小粒の石英や黒色礫が混入する。ⅩⅢａ層の中央部分に薄く褐色粘質土がみられる。ⅩⅡ層は確認されない。約３ｍ掘り下げたが，遺構・遺物は検出されなかった。

2トレンチ

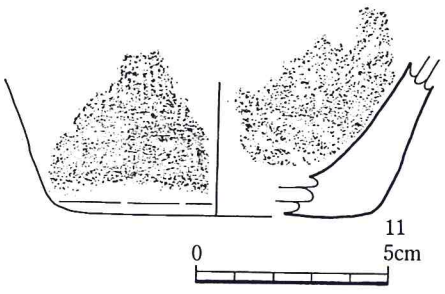
1トレンチと同様の堆積をなすが，1トレンチで確認されたV層の黄橙色土（安城火山灰）とVI層の茶褐色粘質土は検出されない。IX層の下はXI層となり，黄橙色土（ＡＴ火山灰）黄白色砂粒の互層となっている。最下部は，軽石を含む黄橙色火山灰が確認される。このトレンチからは，Ⅲ層より土器が出土した。遺構及び石器は検出されなかった。



第11図　土層断面図

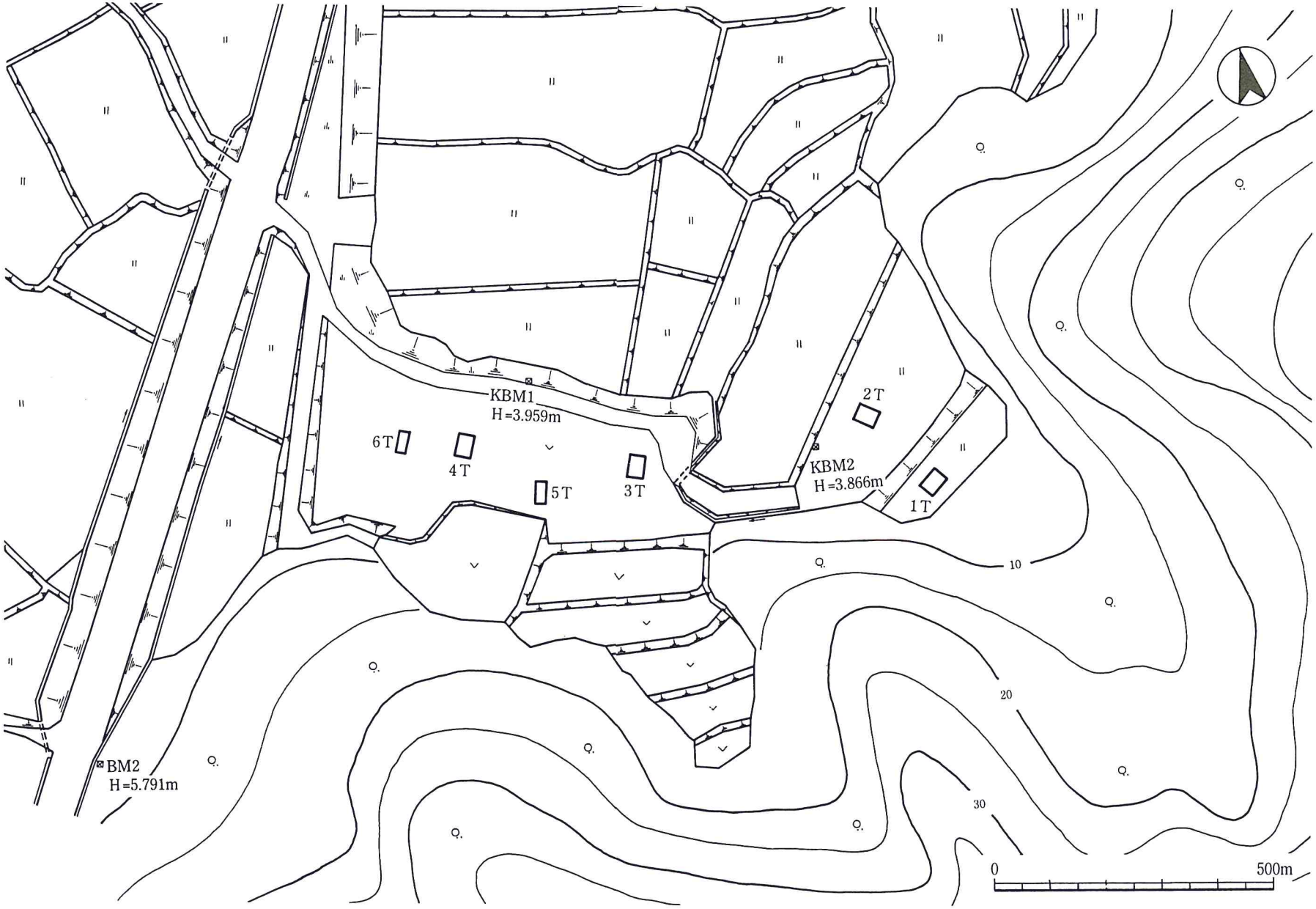
第4節　遺　物

今回の調査では，2トレンチのⅢ層より土器が3点出土した。第12図は平底の底部片である。復元底径8.4cmを測り，外部・内部共に篦で調整している。縦位につけた撚糸が僅かに観察される。器形・型式は不明であるが，アカホヤ層下部からの出土であることから，縄文時代早期の土器と思われる。



第12図　出土遺物

第13図　ヌカス遺跡・嵐遺跡の周辺地形図



第14図　ヌカス遺跡トレンチ配置図

第Ⅳ章　ヌカス遺跡の調査

第１節　調査の概要

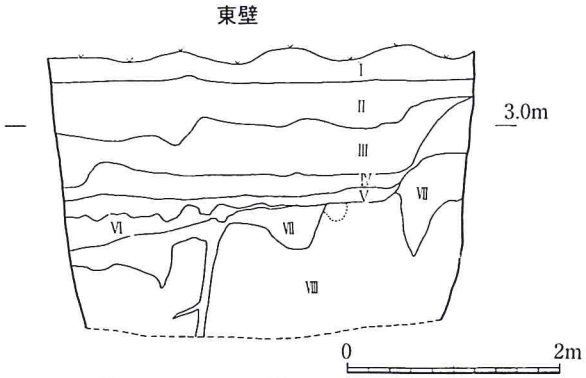
本調査は，中山間地域農村活性化総合整備事業種子島銀河地区による圃場整備事業に先立って実施したものである。

調査にあたっては，第14図のように各畑ごとに３×４ｍを基本とするトレンチを６本設定し，遺物包含層の有無及びその広がりについて確認を行った。表土（耕作土）を重機で除去した後，人力により層を１枚づつ掘り下げていった。

各トレンチ共，湧水が激しくトレンチ壁面の崩落が発生したため，地表約3.5m掘り下げた時点で調査を終了することとした。各トレンチ共，遺構・遺物は確認されなかった。

第２節　遺跡の層位

本遺跡の層位は，第15図のとおりである。



第15図　土層断面図（3トレンチ）

Ⅰ　層　表土　現耕作土
Ⅱ　層　黄褐色礫混じり粘質土
Ⅲ　層　青灰色礫混じり粘質土
Ⅳ　層　灰褐色粘質土
Ⅴ　層　灰色砂質土
Ⅵ　層　灰白色砂質土
Ⅶ　層　青灰色砂岩層
Ⅷ　層　青褐色砂岩層

第３節　各トレンチの調査

１トレンチ

６か所設定したトレンチの中では最も高い標高を持ち，背後に砂岩質の山が迫る畑地である。表土が現耕作土であるが，Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層も酸化鉄を含む水田耕作土であり，過去稲作が行われていたことを表している。Ⅲ層には，背後の山から流れ込んだものと思われる円礫が多数含まれる。Ⅳ・Ⅴ層は植物繊維を多量に含み，互層となっている。遺構・遺物は検出されなかった。

２トレンチ

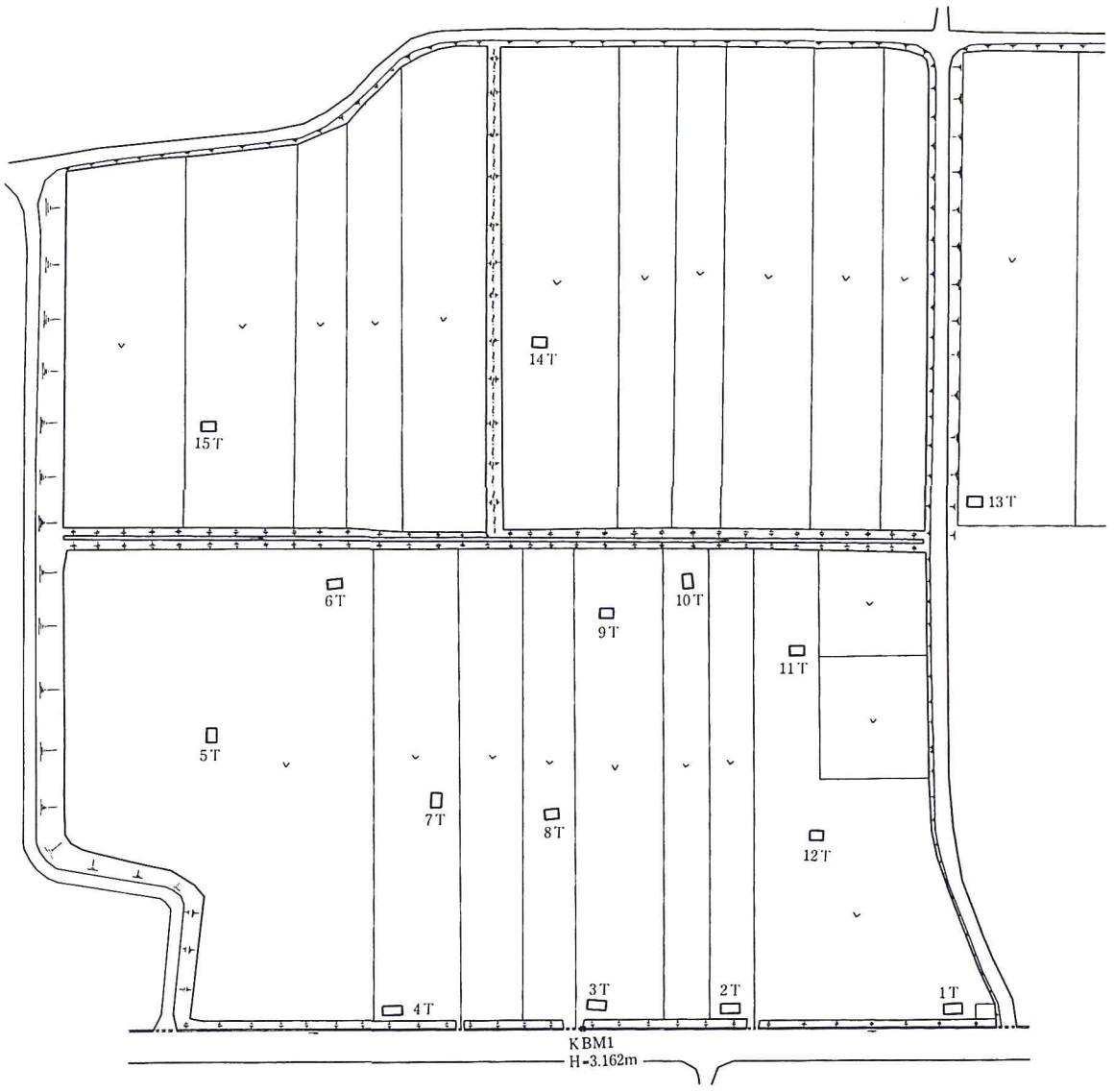
１トレンチより一段低い畑に設定したトレンチである。１トレンチ同様，表土下は旧水田耕作土及び植物繊維を含む互層である。４ｍ近く掘り下げたが，湧水が激しく，壁面崩落のため調査を終了した。遺構・遺物は検出されなかった。

３トレンチ

表土の下に，２枚の礫混じり粘質土を確認したが，いずれも旧水田を畑地にするために行われた客土である。Ⅳ・Ⅴ層が旧水田耕作土と見られ，Ⅳ層に「シバ」による暗渠排水施設の残存を確認した。下部は，岩石化した砂層になる。遺構・遺物は検出されなかった。

４・５・６トレンチ

３トレンチと同様の堆積をなしている。遺構・遺物は検出されなかった。



第16図　嵐遺跡トレンチ配置図

第Ⅴ章　嵐遺跡の調査

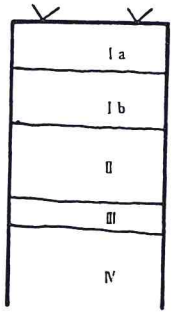
第１節　調査の概要

本調査は，中山間地域農村活性化総合整備事業種子島銀河地区による，農道内のかんがい施設整備でパイプライン布設工事に先立って実施したものである。

調査に当たっては，対象道路での調査が農作業の関係から実施できなかったため，周辺の畑地に２×４ｍのトレンチ４本，２×３ｍのトレンチ11本を設定し，遺物包含層の有無及びその広がりについて確認を行った。

第２節　遺跡の層位

本遺跡の基本的層位は，第17図のとおりである。



Ⅰa層　表土。耕作土
Ⅰb層　茶褐色土（下部に風化礫をもつ）
Ⅱ　層　黄白色砂
Ⅲ　層　黒褐色土
Ⅳ　層　黄褐色砂

第17図　標準層位模式柱状図

第３節　各トレンチの調査

本地区は昭和53年に圃場整備が終了し，今回の事業はこの中の農道にかんがい用のパイプラインを設置するものである。

１・２・３・４トレンチ

Ⅱ層を60㎝を計り，その中にややグライ化した黒褐色土Ⅲ層がある。Ⅲ層は，水田耕作土と考えられ，撹乱を受けており，農業用品の混入が見られ約2.5㎝掘り下げた時点で湧水が始まり，調調査を終了した。

遺物・遺構は検出されなかった。

５・６・７・８トレンチ

対象地西側に設定した調査トレンチである。

表土の下にⅡ層黄白色砂層が１ｍほど堆積するが，農業用品の混入が見られ撹乱を受けている。Ⅲ層黒褐色土は，Ⅱ層との撹乱が部分的に見られた。湧水があり，調査を終了した。

遺構・遺物は検出されなかった。

９・10・11・12トレンチ

対象地西側に設定した調査トレンチである。

表土の下にⅡ層黄白色砂層が60㎝ほど堆積するが，黒色土の混じりが見られる。これらのトレンチでは，Ⅲ層の黒褐色土が存在せず，すぐⅣ層黄褐色砂層になる。過去水田がなかった場所と考えられる。

遺構・遺物は検出されなかった。

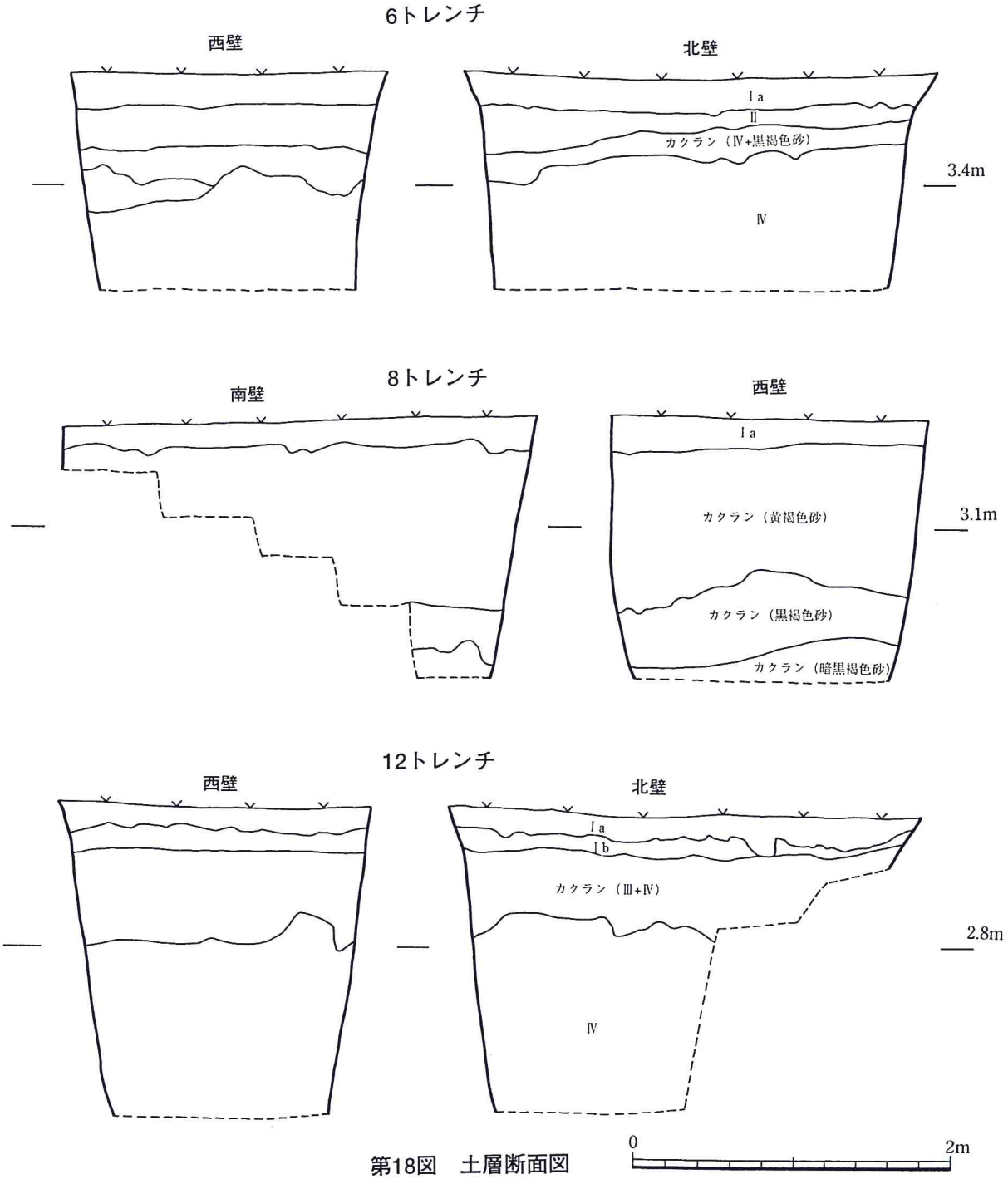
13・14・15トレンチ

対象地北側に設定した調査トレンチである。

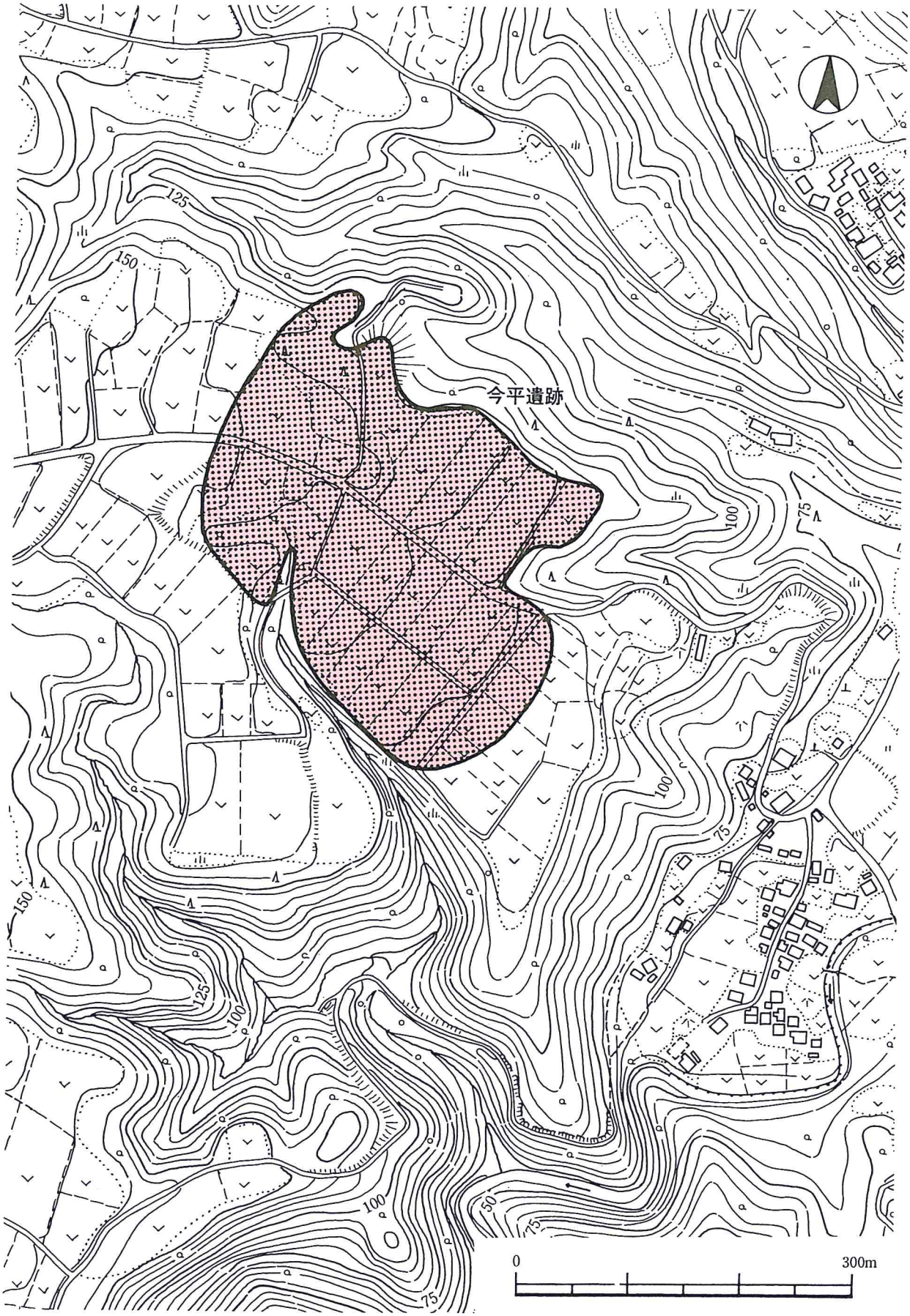
表土の下にⅡ層黄白色砂層が１mほど堆積し，その下に撹乱を受けたⅢ層があるが，13トレンチだけであり，14・15トレンチには存在しない。

湧水が激しく，約2.5 m掘り下げた時点で調査を終了した。

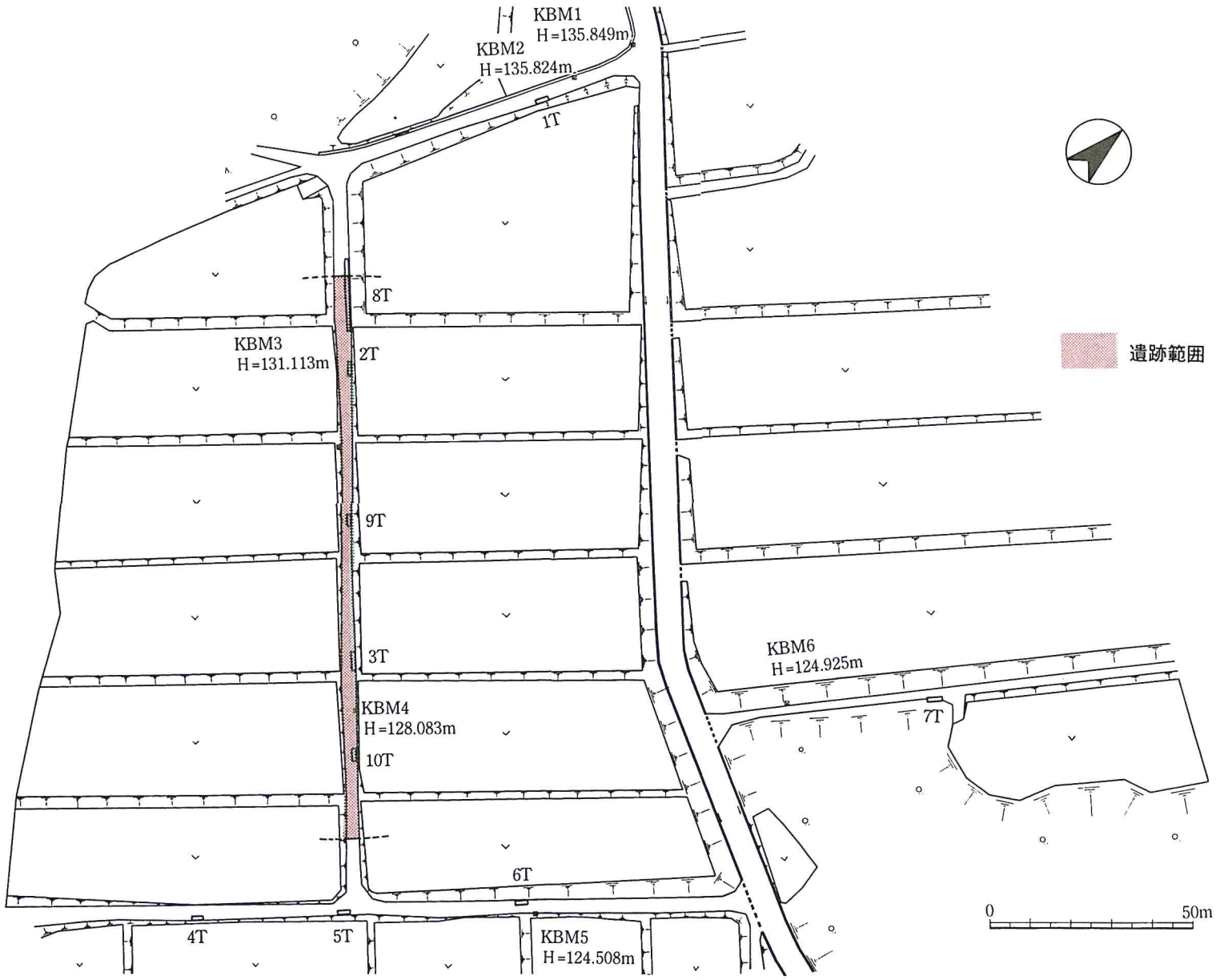
遺構・遺物は検出されなかった。



第18図　土層断面図



第9図　今平遺跡の周辺地形図



第20図　トレンチ配置図

第Ⅵ章　今平遺跡の調査

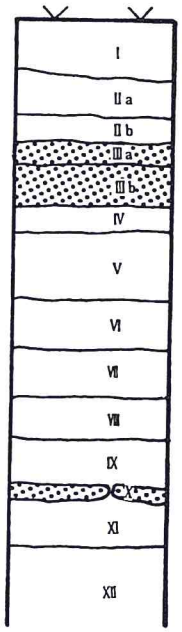
第１節　調査の概要

本調査は，県営畑地帯農道網整備事業西之地区の計画に伴う事前調査である。本事業は，圃場整備された畑を縦横に走る道路の舗装工事であることから，地形などを考慮しながら任意にトレンチを設定することとした。但し，畑地内のトレンチ設定は作物の植え付けや地権者の同意が得られなかったこともあり，道路に１×３ｍを基本として10本のトレンチを設定し，調査を実施した。圃場整備事業により殆どのトレンチで，Ⅱ層あるいはⅢ層まで削平を受けている。また，Ⅷ層までの削平を受けているトレンチもみられる。

表土は，道路の軟岩砂利が約15㎝で敷設されているため，重機により剥ぎ取りながら順次人力により掘り下げた。調査の結果，２トレンチと９トレンチから遺物が出土した。２トレンチは，アカホヤ火山灰上面の縄文時代前期の包含層より小土器片が，また，９トレンチからはアカホヤ火山灰より下位で土器が出土した。その結果，事業対象道路部分のうち約560㎡の範囲に遺物包含層の存在が確認された。

第２節　遺跡の層位

本遺跡の基本的層位は，第21図のとおりである。



第21図　標準層位模式柱状図

Ⅰ　層　表土
Ⅱa層　黒褐色砂質土
Ⅱb層　黒色砂質土（縄文時代前期包含層）
Ⅲa層　黄橙色土（アカホヤ火山灰）
Ⅲb層　黄白色土（黄色のパミスを含む）
Ⅳ　層　明茶褐色粘質土（縄文時代早期包含層）
Ⅴ　層　茶褐色粘質土（やや固い）
Ⅵ　層　暗黄褐色粘質土（固く締まる）
Ⅶ　層　〃　（Ⅵ層より軟質）
Ⅷ　層　黒褐色粘質土（固く締まる）
Ⅸ　層　黄褐色粘質土（固く締まるがⅧ層より軟質）
Ⅹ　層　黄橙色土（ＡＴ火山灰）
Ⅺ　層　黒褐色粘質土
Ⅻ　層　黄褐色粘質土

以上の層序を基本とするが，いずれにも該当しない土層についてはその色調などの特徴をトレンチ土層断面図に記した。

第３節　各トレンチの調査

１・６・７トレンチ

遺跡の西側，標高135.5ｍのところに１×３ｍのトレンチを設定した。表土は道路面で軟岩砂利である。圃場整備によりⅧ層まで削平を受けている。遺構・遺物は検出されなかった。

2トレンチ

Ⅱb層の黒色砂質土（縄文時代前期包含層）より微細な土器片が2点出土した。また，Ⅲa層の上面にて黒色土を埋土とするピットを2基検出したが，堀込みの状態などからみて自然のもの（樹根？）と思われる。

遺構・遺物は検出されなかった。

3トレンチ

1×3mのトレンチを設定した。アカホヤ上面でトレンチの中程より東に黒褐色土が検出されたため，更に東側へ約1.5m拡張した。その結果，圃場整備事業時点での削平による撹乱層であった。

遺構・遺物は検出されなかった。

4・5トレンチ

4トレンチの上部は削平を受けている。早期包含層は辛うじて残っているものの遺物の出土はなかった。5トレンチは遺跡の最東部に近い三叉路に南北方向1×3mで設定した。Ⅵ層まで削平を受けている。

遺構・遺物は検出されなかった。

8トレンチ

2トレンチの西側に包含層の範囲確認のために設定した。トレンチの西側はⅣ層まで削平を受けているため，更に東へ拡張（1×18m）した。調査の結果，縄文時代早期包含層は，西より5mまで削平を受けている。旧地形は，現在より更に高く傾斜をもっていたことが確認された。

遺構・遺物は検出されなかった。

9・10トレンチ

9トレンチのアカホヤ直下より，土器の底部片が出土した。また，10トレンチでは同Ⅳ層より，加熱を受けたと思われる礫3点が同一場所で検出されたが，性格は不明である。

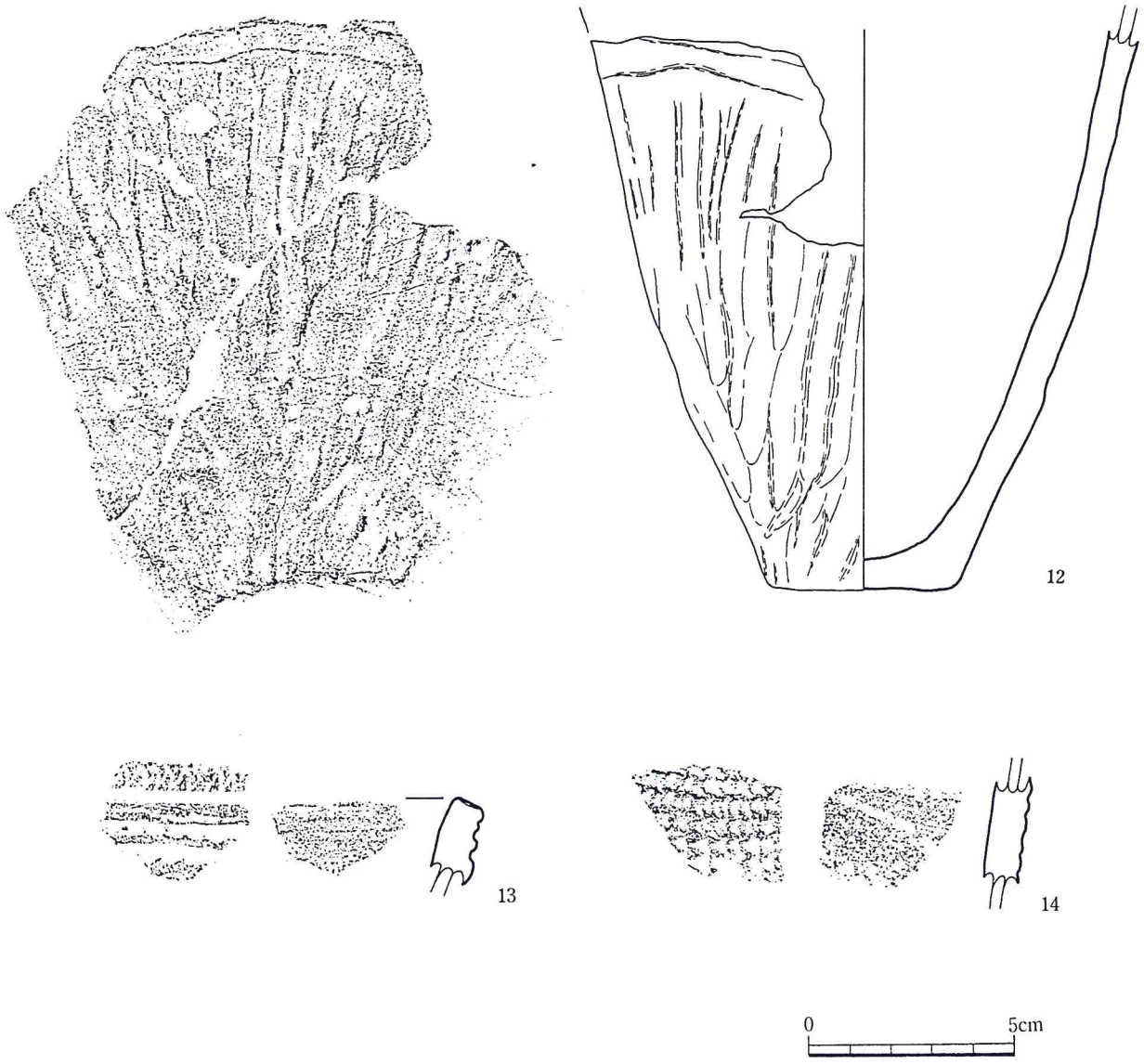
第4節　遺物

今回の調査で出土した遺物は，縄文時代前期が2トレンチに2点，早期が9トレンチに1点であった。

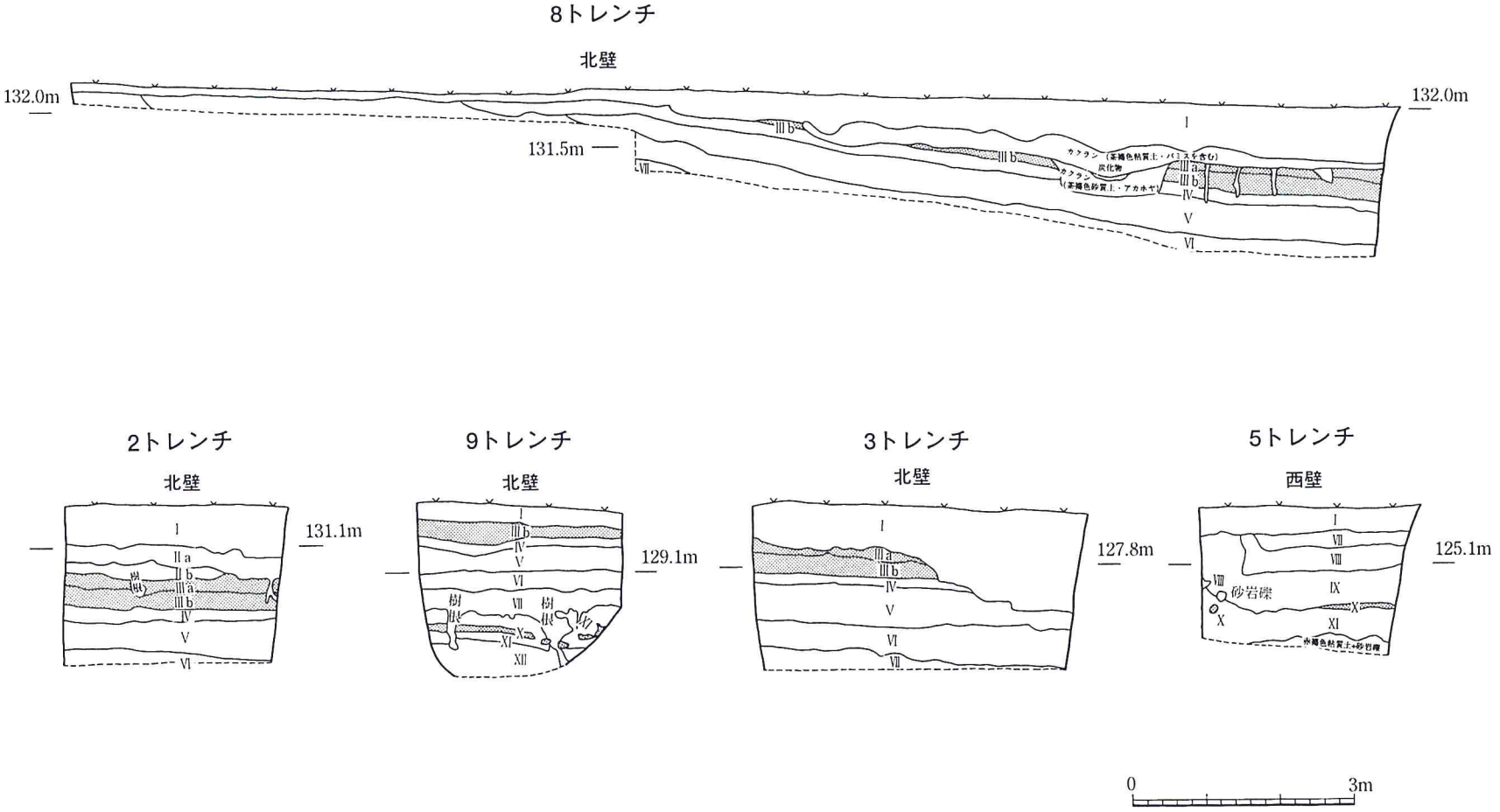
2トレンチの土器片は，極めて小さいため型式等の判断は不可能であった。

第22図－12は，9トレンチの遺物で，縄文時代早期包含層より出土した。胴部から底部にかけての土器で，底部の直径は4.5㎝を測り平底である。胴部でやや膨らみを持つ小型の土器である。口縁部から頸部にかけては欠落しており器型の全容は確認できない。外面は，指頭か先の円い篦を施文具として用い，胴部から底部までにかけて縦位あるいは斜位になでている。また最上部では，横位の微隆起の条痕となっている。この調整を施した痕が，そのまま文様としての効果を出している。内面は，ナデ調整がなされている。胎土に，長石・金雲含む。焼成は，良い。色調は，外面は明茶褐色で内面は黒褐色を呈している。

第22図－13・14は，本遺跡の最東部付近で採集された遺物である。共に同一固体の土器であると思われる。13は口縁部で，横位に篦による連続した刺突を施している。口唇部には刻みが観察される。14は胴部付近と思われ，同じく刺突が連続して施される。いずれも，色調は外面が黄褐色で内面は赤褐色を呈する。胎土に石英・砂粒が観察される。内面の調整は横位のケズリである。焼成は良い。縄文時代早期の吉田式土器である。



第22図　出土・採集遺物


8トレンチ
北壁
132.0m
131.5m
132.0m
2トレンチ
北壁
131.1m
9トレンチ
北壁
129.1m
3トレンチ
北壁
127.8m
5トレンチ
西壁
125.1m
砂岩礫
0
3m

第23図　土層断面図

第Ⅶ章　まとめ

摺久保遺跡は，２トレンチで地表面から約2.8mまで掘り下げたところで，土層はⅩⅣ層を数えた。本遺跡から検出されたⅤ層の黄橙色火山灰は，西之表市日守遺跡・中種子町牛ノ原遺跡でも同じような層位（アカホヤ火山灰とＡＴ火山灰の間）から検出されている。残存する火山灰の検出は，極めて限られている。成尾英仁氏は，この火山灰の噴出源を鬼界カルデラか口永良部の可能性を論じているが，現在のところ噴出源が未詳のまま安城火山灰と仮称している(注6)。今回の調査で出土した土器は少量であったが，その中で土器の底部が出土した。器壁の文様は磨滅しているが，僅かながら撚糸文が観察される。縄文時代早期の包含層の存在が確認された。

ヌカス遺跡の下層は，全てのトレンチで有茎の植物繊維を多く含み，灰色と灰白色を呈する砂層が交互に堆積している。これは，この地域がかつて葦等の繁殖した低湿地帯であったことを示している。１トレンチでは，多数の円礫が出土したが，土層や検出状況からして自然礫と思われる。上層は，数枚になった撹乱層でありガラス等の混入も見られることなどから，現代における客土であった。分布調査時における遺物採集は，この客土時の混入と思われる。以上のことから，本遺跡では遺物包含層の存在は確認されなかった。

嵐遺跡は，遺物採集地域を中心にトレンチを設定し調査を進めた。その結果，圃場整備事業における客土層と地山の撹乱層であった。その下層に，黄褐色砂の基盤層（地山）が存在する。今回の調査時点においても遺物が表面採集され，トレンチからの出土が期待されたが，包含層は確認されなかった。

今平遺跡は，縄文時代早期の包含層が約560㎡にわたり確認された。Ⅱ～Ⅲ層は圃場整備事業において削平を受けており，数点の微細な土器が確認された縄文時代前期包含層の存在は希少であった。縄文時代早期の土器は１点のみであったが，この包含層は明瞭に確認できた。

この土器に近いものに横峯Ｃ遺跡の４類土器がある。同一町内という地理的関係や，アカホヤ火山灰直下及び火山灰的位置関係から同一型式のものと思われる。この土器について，近年轟Ⅰ式として捉える考え方が示されているが(注7)，その出自について今回の調査では余りにも出土量が少なく，明言するには不充分である。しかし，近年に至って南種子町内で横峯遺跡の発見以来，この種の土器について南九州早期土器文化の展開やアカホヤ火山灰との関係について新たな考え方も示されはじめている(注8)。したがって，これまで提示された考え方を参考にしながら，今後注目していきたい。

(注1)　鹿児島県考古学会長河口貞徳氏・鹿児島大学法文学部教授上村俊雄氏・同助手本田道輝氏の御教示による。

(注2)　県立埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ文化財主事児玉氏の御教示による。

(注3)　県立串木野高校教諭成尾英仁氏の御教示による。

(注4)　河口貞徳「塞ノ神式土器」『鹿児島考古6号』1972
同氏の研究による撚糸文系の塞ノ神Aa式土器に相当する。

(注5)　注3と同じ。

(注6)　注3と同じ。

(注7)　高橋信武「大分県のｱｶﾎﾔ火山灰直下の土器」『火山灰と考古学をめぐる諸問題』埋蔵文化財研究会・鹿児島集会実行委員会　1987

(注8)　堂込秀人「熊毛諸島の縄文早期土器の一型式」『考古学ｼﾞｬｰﾅﾙ8月号』　1994

図　版

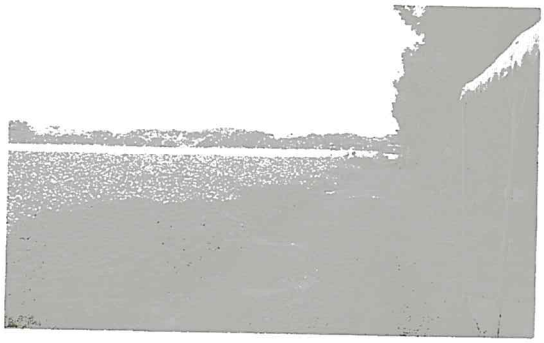
遠　　景

土　　層（1トレンチ）

遠　　景

土　　層（2トレンチ）

摺久保遺跡



近　　景

土　　層（1トレンチ）

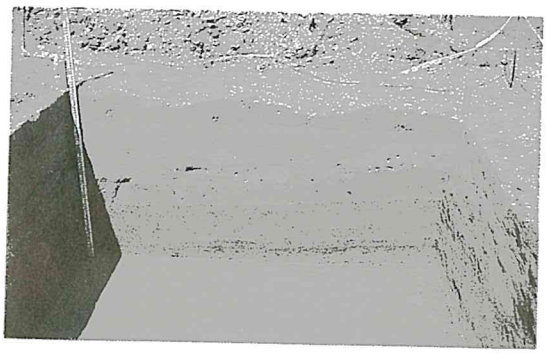
遺物出土状況

遺物出土状況

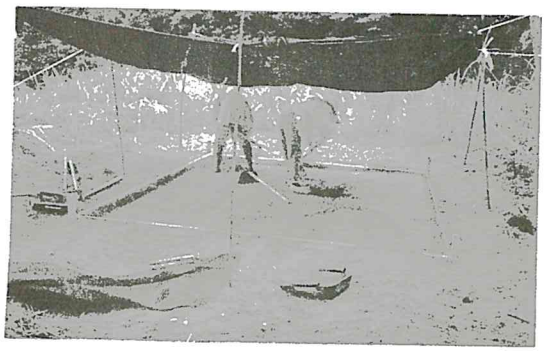
ヌカス遺跡

遠　　景

土　　層（3トレンチ）



土　　層（1トレンチ）

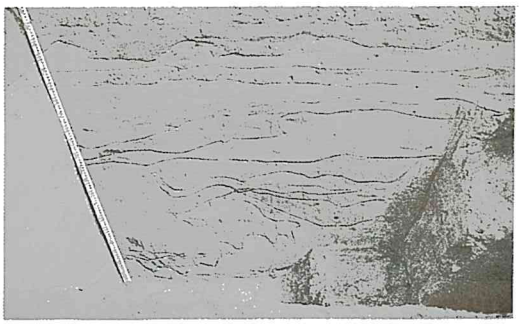


発掘作業風景

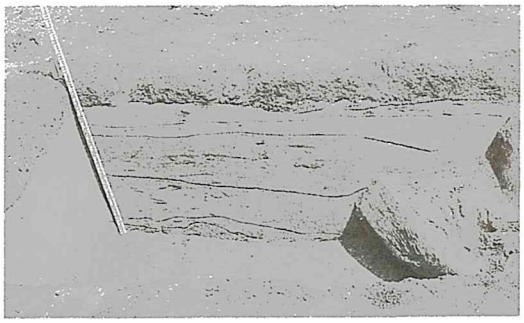
嵐遺跡

近　景

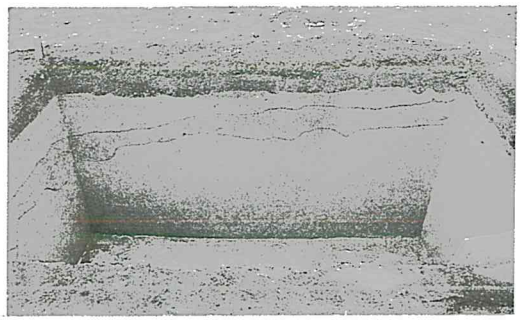
近　景



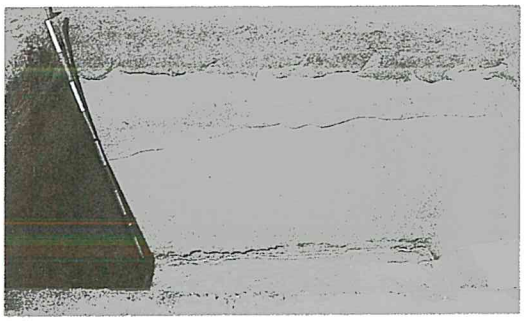
土　層（2トレンチ）



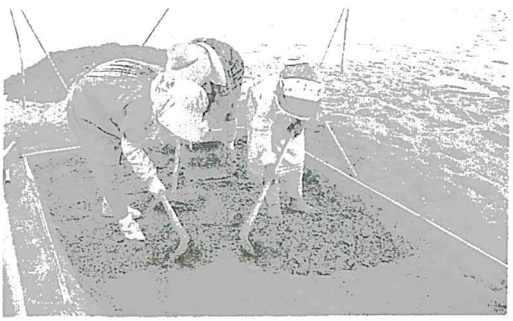
土　層（4トレンチ）



土　層（6トレンチ）



土　層（12トレンチ）

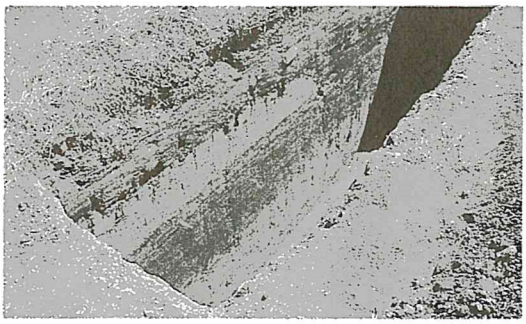


発掘作業風景

発掘作業風景

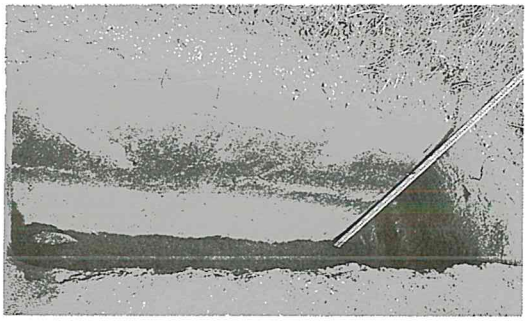
近　　景

土　　層（8トレンチ）



土　　層（3トレンチ）

土　　層（9トレンチ）

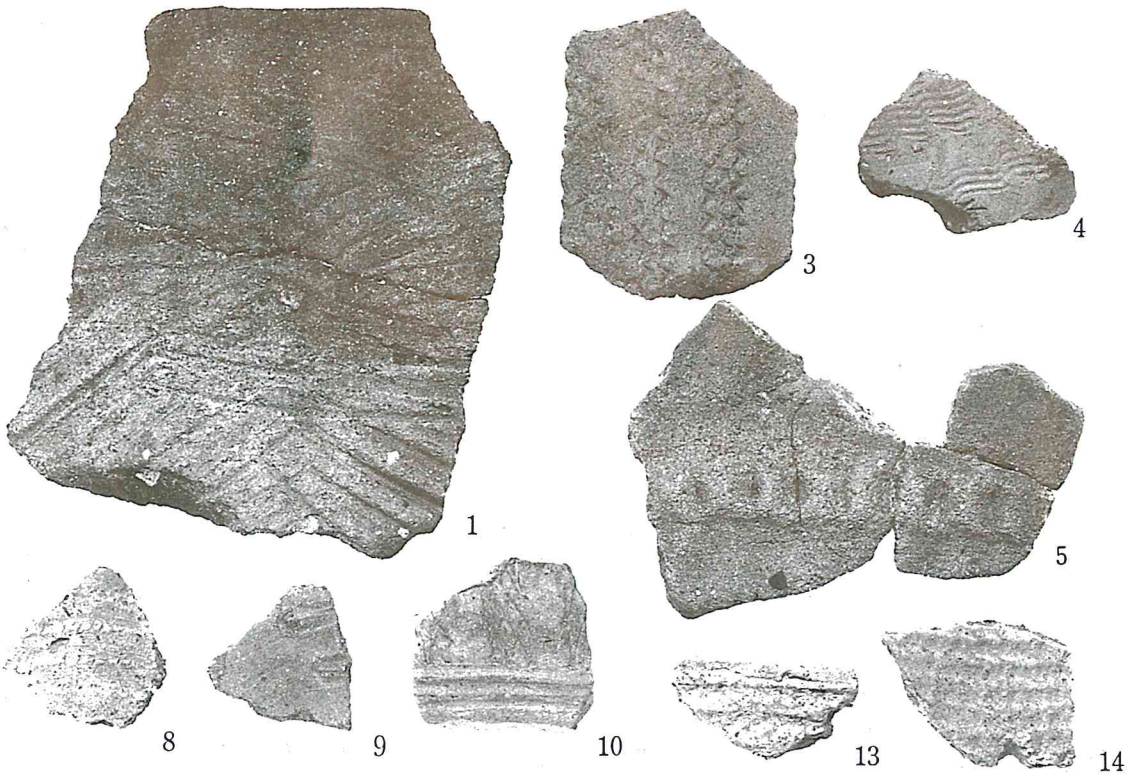


土　　層（6トレンチ）

遺物出土状況

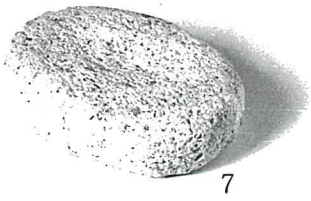
発掘作業風景

重機による埋戻し

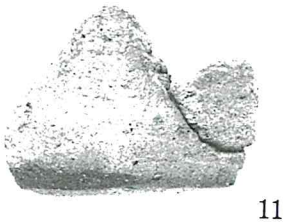


表面採集遺物

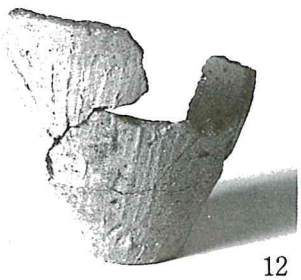
表面採集遺物



表面採集遺物



摺久保遺跡出土遺物



今平遺跡出土遺物

あ と が き

今回の調査期間は約１か月であったため，４か所の遺跡について１遺跡を約１週間のスケジュールで作業を進めた。

８月に入ってからの調査で，ギラギラと真夏の太陽が照りつけるトレンチ内の発掘作業のうえに，残念ながら遺物の出土も少なく，作業員の方々には肉体的にも精神的にも少々きつい発掘作業であったことだろう。そんな悪条件のなかで，黙々と作業を続けてくれた方々に心より感謝する次第である。

報告書作成にあたっては，鹿児島県考古学会長河口貞徳氏や鹿児島大学法文学部教授上村俊雄氏・同助手本田道輝氏に御指導・御助言をいただき感謝申し上げます。また，一連の作業を細部にわたり御指導・御協力いただいた県立埋蔵文化財センターの職員の方々をはじめ，整理作業をお手伝いいただいた方々に記して感謝の意を表したい。

本報告書では，確認調査の外に表面採集で新たに発見された６か所の遺跡も紹介した。今後の調査・研究に，少しでも御活用いただければ調査担当として光栄である。

南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)

摺久保遺跡
ヌカス遺跡
嵐　遺跡
今　平遺跡

1996年3月

発　行　南種子町教育委員会
鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2793-1
印　刷　種子島新生社印刷
鹿児島県西之表市西之表16516